



佐賀県立九州陶磁文化館

平成 28 年度年報・資料目録No.36

Annual Report &
Catalogue of Collections No.36
The Kyushu Ceramic Museum

2016.4 ~ 2017.3

は じ め に

このたび、平成 28 年度の事業概要をまとめました。昨年、西暦 2016 年(平成 28 年)は、有田焼創業 400 年を記念し、有田焼をとりまくさまざまなプロジェクトが実施されました。当館においても創業 400 年を記念し、「人間国宝と三右衛門」展、「日本磁器誕生」展、「日本磁器の源流」展という特別企画展を連続して 3 つ開催し、大変多くのお客様にお越しいただきました。

有田焼創業 400 年を記念するさまざまな事業は好評のうちに終了しましたが、私ども九州陶磁文化館にとって、昨年は大変ショッキングな天災もありました。4 月 14 日、16 日を中心に発生した熊本地震です。当館および所蔵作品には影響はなかったものの、熊本地方では、甚大な被害がありました。多くの陶磁器も破損したと聞いています。九州の陶磁器文化に貢献するという設立理念をもつ当館にとっては、熊本の陶磁器文化の一助となることを願わずにはいられませんでした。そこで、本年度の秋には特別企画展「熊本のやきもの」を開催することにしております。

豊かな自然にはぐくまれた、伝統ある熊本のやきものの美と力強さを紹介し、併せて熊本地震の復興の機運の継続と盛り上がりへ資することを願い、目下準備を進めています。今後も九州の陶磁器文化に貢献できるよう、努めていきたいと思っております。

引き続き関係各位のご指導とご協力をお願い申し上げます。

佐賀県立九州陶磁文化館
館 長 鈴田 由紀夫

目 次

はじめに	1
目 次	2
館の概要	
設立の目的 活動の目的	3
沿革	4
施設・設備の概要	5
組織・職員等	8
佐賀県立博物館施設資料購入指針	10
佐賀県立九州陶磁文化館資料取扱規程	11
佐賀県立九州陶磁文化館施設等の使用に関する取扱要領	14
事業日誌	15
展示活動	
1. 常設展	16
2. 企画展・テーマ展など	26
3. 利用状況	40
4. 館蔵資料の貸出	41
5. 資料閲覧・写真撮影・フィルム借用・印刷物等掲載・複製申請処理	42
教育普及活動	
1. 展示案内	42
2. 地域主催イベントとの関連行事	43
3. 陶芸文化講座	44
4. 印刷物等の刊行	44
5. 資料鑑識	44
6. 講演など	45
調査研究活動	
1. 調査・研修	46
2. 調査協力・出張など	47
資料収集活動	
1. 陶磁資料の収集	48
2. 図書資料の収集	48
館蔵資料目録	48

館の概要

設立の目的

佐賀県立九州陶磁文化館は、肥前陶磁器をはじめ、各地域において、独自の伝統を継承発展させてきた九州の陶磁器に関し、その文化遺産の保存と陶芸文化の発展に寄与する目的で設立されました。

そのため、歴史的、美術的、産業的にみて重要な資料をあまねく収集・保存・展示し、あわせて調査研究や教育普及活動を行います。

したがって当館は、九州の陶芸文化に関する総合的施設の位置にあるばかりでなく、国際的にも注目される存在となることをめざしています。

活動の目的

・ 展示活動

展示室は、5室に分かれ、そのうち固定展示室（第4展示室）においては、九州の陶磁の歴史を、実物あるいは図表・年表・写真などによって学ぶことができる仕組みになっています。柴田夫妻コレクション展示室（第5展示室）は江戸時代の有田焼を多数展示しています。他の3室では、企画展、その期間外は九州の古陶磁や現代陶芸の常設展示、あるいは随時個人もしくは団体の陶芸展を開催しています。

・ 収集活動

国の内外を問わず、九州の陶磁に関して、歴史的、系譜的に資料（陶磁器・出土資料・古文書・古記録等）の調査収集を行っています。また資料の充実を図るため、資料の購入をはじめ寄贈・寄託資料の受入れにも努力しています。

・ 調査研究活動

九州の陶芸あるいは陶磁産業を歴史的・総合的に明らかにするために、考古学・美術工芸史など色々な分野にわたる資料・文献の調査収集に努めています。また、学術講演会や研究の交流を通じて研究の進展を図っています。

・ 教育普及活動

陶芸文化講座等を行って陶芸文化に対する理解を深め、さらに陶芸実習室を創作活動の場として提供するなど、広く陶芸文化に関する普及活動を行っています。



沿革

- 昭和 48. 1. 8 有田町長外、国際陶芸美術館建設について陳情
昭和 51. 4 陶芸文化施設調査費を計上
52. 4 陶芸文化施設調査費を計上
52. 6 佐賀陶芸文化センター（仮称）建設計画案を作成
52. 11 基本設計委託をアルセッド建築研究所と契約
52. 11. 24 第1回佐賀県陶芸文化センター建設委員会開催
52. 12. 8 佐賀県陶芸文化センター建設促進協力会設立（会長 鍋島直紹）
53. 2. 28 基本設計完了
53. 3. 29 建設費関係予算決定（約19億円）
53. 4. 1 専任職員3名を配置
53. 11. 15 建設工事入札
53. 12. 20 設備工事入札
53. 12. 27 用地譲渡契約締結（有田町より無償譲渡）
54. 1. 16 起工式
54. 5. 11 正式名称打合会（「西日本陶磁文化館」の案）
54. 7. 6 正式名称「佐賀県立九州陶磁文化館」
（英文名称 THE KYUSHU CERAMIC MUSEUM）と決定
54. 10. 3 外構・植栽工事入札
55. 3. 25 佐賀県立九州陶磁文化館竣工（建設工事費：1,745,100千円）
55. 3. 27 佐賀県立九州陶磁文化館条例・同管理規則等を公布
55. 11. 1 開館
- 平成 元. 6. 12 染付鷲文三足大皿が重要文化財に指定
5. 3. 25 柴田夫妻コレクション展示室完成
5. 4. 29 柴田夫妻コレクション展示室が常設展の一室として開室
6. 4. 1 旧窯業技術センター跡地(12,011.00㎡)を当館敷地として所管換
12. 2. 22 玄関自動ドア設置
12. 12. 4 染付山水文輪花大皿が重要文化財に指定
12. 12. 28 からくり時計設置
14. 3. 20 来館者用トイレ改修・増設
18. 3. 31 有田磁器（柴田夫妻コレクション）10,311点が国登録有形文化財（美術工芸品）に登録
26. 3. 31 防犯カメラ改修・新設
26. 8. 31 エントランス照明設置
27. 3. 16 身障者駐車場屋根設置
27. 3. 16 収蔵庫棚新設
27. 3. 20 館内Wi-Fi環境整備
28. 3. 24 館内案内タブレットPC「九陶ナビ」（多言語対応）整備

施設・設備の概要

所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1
設計管理	内田祥哉＋アルセッド建築事務所
施工業者	(1) 建築・外構…住友建設・松尾建設共同企業体 (2) 設備工事・電気設備…新生電気・宮園電気共同企業体 (3) 空調設備…丸紅設備・昭栄設備工業共同企業体 (4) 給排水設備…葉隠設備工業（株） (5) 植栽…中村永楽造園土木（株）
工期	昭和 54 年 1 月 16 日～昭和 55 年 3 月 25 日
規模	(1) 敷地面積：43,619.59 m ² (2) 建築面積：3,831.93 m ² (3) 延床面積：6,526.54 m ² (4) 構造：鉄筋コンクリート造地上 2 階、一部 3 階建
主要設備	(1) 電気設備 契約電力：320kw（6,000V 受電） 発電機：80kw（220V） (2) 空調設備 冷暖房：吸収冷温水機（能力 544,320.0 kcal/h）平成 6 年施工 その他：防排煙連動操作設備（防火シャッター、排煙ファン）等 (3) 給排水設備 給水設備：町水道使用、受入槽 30t（15t 2 基） 排水設備：町公共下水道 消火設備：屋内消火槽、ハロンガス消火設備等 その他：給湯設備、身障者便所等

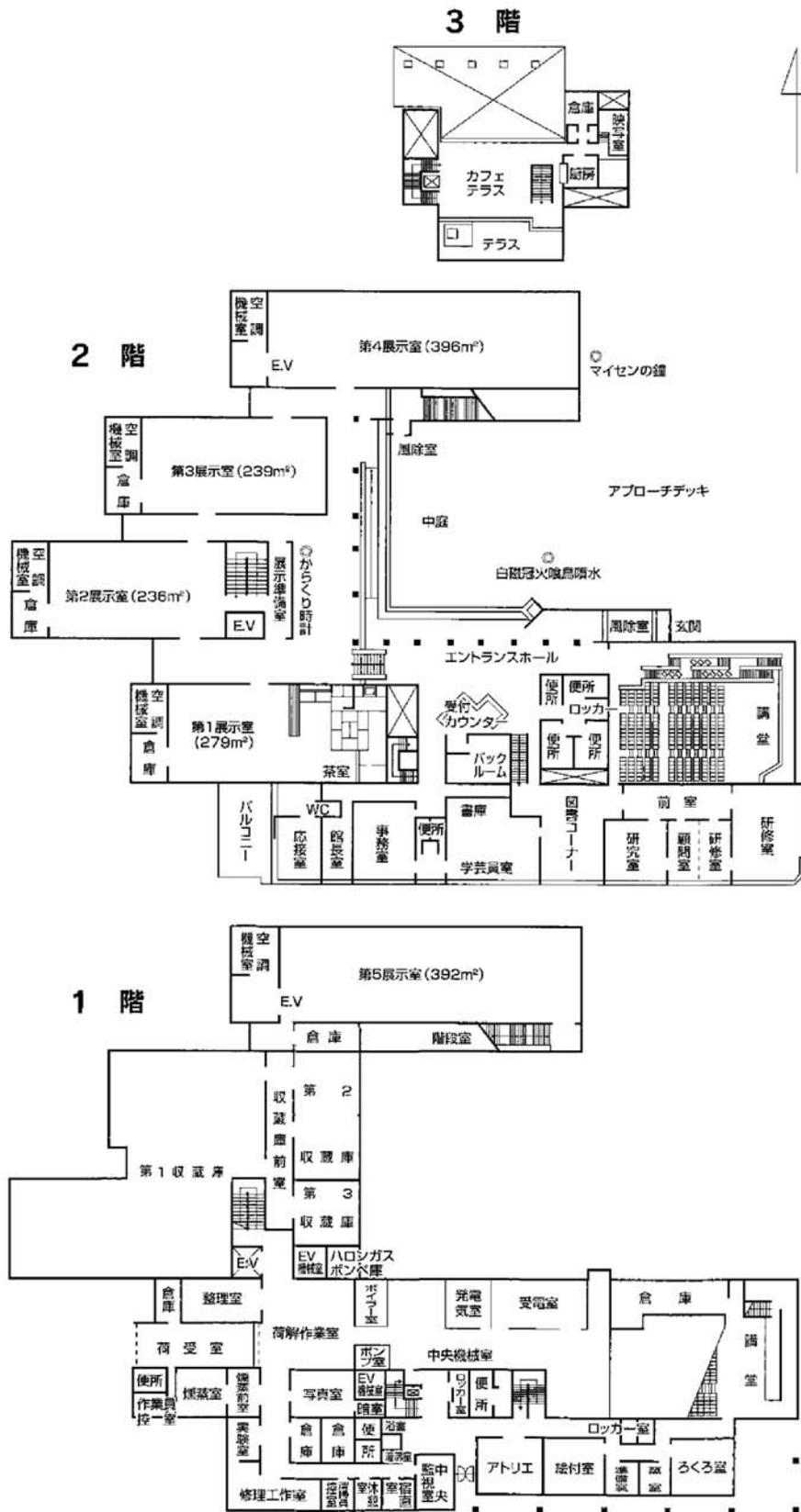
〔単位：m²〕

部 門	室 名	室数	面 積
展示施設	一 般 展 示 室	1	279.56
	企 画 展 示 室	1	236.95
	常 設 展 示 室	1	239.54
	固 定 展 示 室	1	396.26
	柴 コ レ 展 示 室	1	392.13
	展 示 準 備 室 ・ 倉 庫	1	169.70
	小 計		1714.14
収蔵施設	第 1 収 蔵 庫	1	532.68
	第 2 収 蔵 庫	1	105.50
	第 3 収 蔵 庫	1	52.44
	そ の 他	1	553.80
	小 計		1244.42
研修施設	講 堂	1	385.49
	陶 芸 実 習 室	4	122.38
	一 般 研 修 室	2	203.76
	図 書 コ ー ナ ー	1	102.49
	そ の 他		154.85
	小 計		968.97

部 門	室 名	室数	面 積
研究施設	研 究 室	1	54.58
	実 験 室	1	19.21
	そ の 他	1	56.05
	小 計		129.84
管理施設	機 械 室 事 務 室 等		355.69 553.99
	小 計		909.68
共通施設	展 示 ホ ー ル		406.73
	エ ン ト ラ ンス ホ ー ル		284.15
	そ の 他		868.61
	小 計		1559.49
	合 計		6526.54

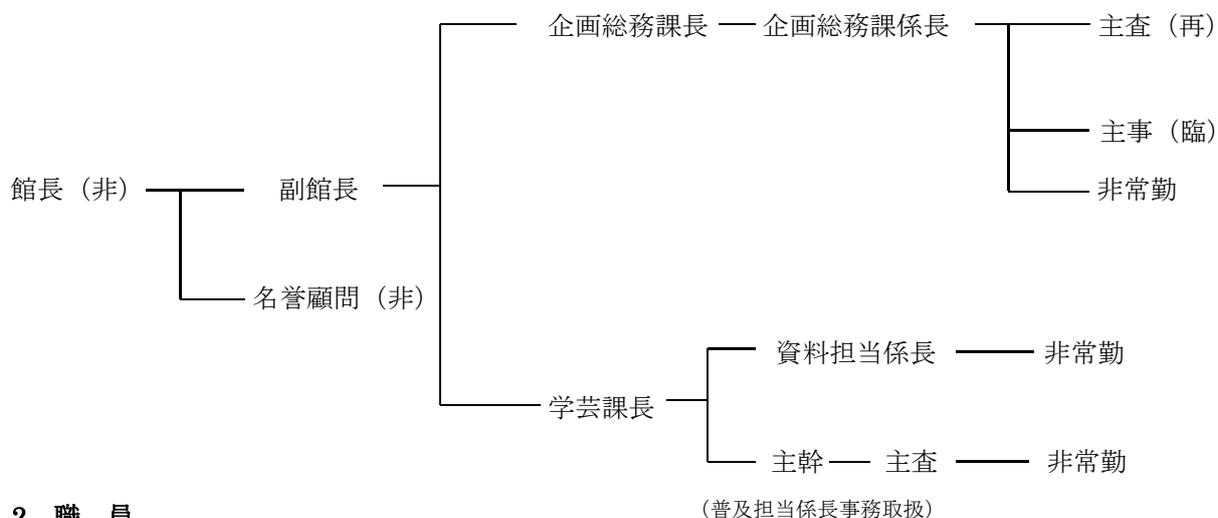
施設

施設平面図



組織・職員等

1. 組織



2. 職員

職名	氏名	分掌事務
館長	鈴田 由紀夫	館の総括
名誉顧問	大橋 康二	名誉顧問
副館長	杉谷 直幹	館の総括補佐
企画総務課長	川崎 和博	課の総括
企画総務課係長	樟 道代	係の総括、企画・広報、予算・決算総括
主査(再)	黒木 淳一郎	広報、財産管理（備品）、支出（他担当分を除く）、文書、収入（図録等以外）
主事	浦川 誠記	予算・決算、庁舎・財産管理（備品を除く）
非常勤	大宅 可那子	収入（図録等）、物品管理、普及啓発
学芸課長	家田 淳一	課の総括
資料担当係長	藤原 友子	資料調査収集、展示
非常勤	小林 祐子	観覧者への説明案内、予約管理、資料管理
主幹 (普及担当係長事務取扱)	徳永 貞紹	教育普及・展示
主査	山本 文子	教育普及・展示
非常勤	瀬戸口 朗子	有田焼創業 400 年事業特別企画展準備

平成 29 年 3 月 31 日現在

3. 協議会委員（任期：平成 27 年 6 月 23 日～平成 29 年 6 月 22 日）

氏 名	役 職 名
今泉 今右衛門	色鍋島今右衛門技術保存会 会長
尾崎 葉子	有田町歴史民俗資料館 館長
小林 知美	筑紫女学園大学 准教授
酒井田 柿右衛門	柿右衛門製陶技術保存会 会長
田中 誠	イー・カルチャー株式会社 企画開発部長
中里 太郎右衛門	佐賀県陶芸協会 副会長
深川 祐次	有田商工会議所 会頭
藤生 雄一郎	佐賀新聞社 編集局生活文化部 デスク
武藤 明美	県議会議員
山口 隆敏	有田町長
力武 直子	茶道裏千家淡交会 佐賀青年部 部長
前田 なつき	西有田中学校 教諭
古川 朋子	有田町婦人会 会員
松尾 あずさ	有田中部小学校 P T A 母親部長

平成 29 年 3 月 31 日現在

4. 資料専門委員会（任期：平成 27 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日）

氏 名	役 職 名
今泉 今右衛門	色鍋島今右衛門技術保存会 会長
尾崎 直人	元福岡市美術館 学芸課長
酒井田 柿右衛門	柿右衛門製陶技術保存会 会長
中里 太郎右衛門	佐賀県陶芸協会 副会長

平成 29 年 3 月 31 日現在

佐賀県立博物館施設資料購入指針

(趣旨)

第1条 この指針は、規則その他規程に定めがあるものを除き、佐賀県立博物館・美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館（以下「各館」という。）の資料購入を行うための、必要な事項を定めるものとする。

(資料収集調整委員会)

第2条 各館の購入資料は、すべて別途定める「佐賀県立博物館施設資料収集調整委員会（以下「委員会」という。）」において、選定するものとする。

(資料購入費の配分)

第3条 委員会事務局は、各館の購入実績等を踏まえ、事前に資料購入費の一応の目安額となる配分額を示すものとし、その調整は委員会において行うこととする。

2 購入資料の選定後、文化課は各館からの申請により資料購入費を再配当する。

(購入予定資料の評価)

第4条 委員会で選定した購入資料のうち、一件の購入予定価格が400万円以上のものについては、当該資料と直接利害関係を有しない複数の学識経験者等に意見を求めるものとする。また、購入予定価格の如何を問わず、評価が困難なものについても同様の取扱とし、適正な評価に努めなければならない。

(購入の取りやめ)

第5条 前条の評価の結果、購入が適当でない場合や市場の変化等により購入が不可能となった場合の購入取りやめの判断は各館の館長が行うものとする。なお、その際は委員会事務局へ速やかに報告することとする。

(資料の購入先)

第6条 資料購入先は、同一業者に偏向しないように配慮する。なお、原則として、年に1,000万円以上の取引が過去3ヶ年以上継続した業者からの購入は1年間見合わせる。

附則

(適用期日)

1 この指針は、平成24年5月9日から適用する。

佐賀県立九州陶磁文化館資料取扱規程

平成 29 年 4 月 1 日改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、佐賀県立九州陶磁文化館（以下「陶磁文化館」という。）が陶磁文化館資料（佐賀県財務規則（平成 4 年佐賀県規則第 3 5 号。以下「財務規則」という。）第 1 4 3 条第 2 項の規定による物品分類表中博物館資料に分類される物品をいい、以下「資料」という。）の購入、寄贈、寄託、一時預り、貸出し、公開等を行う場合における資料の管理・保管の方法について、財務規則に定めるもののほか必要な事項を定めるものとする。

(資料の分類)

第 2 条 資料の分類は、別表 1 の分類により整理するものとする。

(資料の購入)

第 3 条 陶磁文化館で購入する資料は、すべて佐賀県立九州陶磁文化館資料専門委員会（以下「資料専門委員会」という。）で選定し、佐賀県立博物館施設資料収集調整委員会（以下「調整委員会」という。）において決定するものとする。

- 2 陶磁文化館の常勤の館長又は統括副館長（以下「常勤館長等」という。）は、調整委員会で購入を決定した資料のうち 1 件あたりの購入予定額が 4 0 0 万円以上のものについては、専門委員会の委員から評価調書（別記様式第 1 号）により意見を求めるものとする。また、資料価値の算定が困難な資料については、購入予定額の如何にかかわらず、必要に応じて学識経験者等から意見を求め、適正な評価に努めなければならない。
- 3 常勤館長等は、前項の規定による評価の結果により購入を取り止めようとする場合又は購入が不可能と判断した場合は、不購入の決定を行うものとする。この場合は、調整委員会へ速やかにその旨を報告するものとする。

(資料の寄贈)

第 4 条 陶磁文化館に資料を寄贈しようとする者は、資料寄贈申込書（別記様式第 2 号）により常勤館長等に申し込まなければならない。

- 2 常勤館長等は、前項の規定により申込みのあった資料について必要に応じて資料専門委員会に諮るなどの措置を講じ、陶磁文化館で所蔵することが適当と認めるものについては、寄贈資料受納調書（別記様式第 3 号）を作成し、受納を決定するものとする。この場合において、1 件あたりの時価見積額が 4 0 0 万円以上の資料については、資料専門委員会の委員等による選定・評価を受けなければならない。
- 3 前項の規定により受納を決定した場合は、寄贈者に対し寄贈資料受納書（別記様式第 4 号）を送付するものとする。

(資料の寄託及び一時預り等)

第 5 条 陶磁文化館に資料を寄託（1 年以上の期限を定めた寄託に限る。）しようとする者は、資料寄託申込書（別記様式第 5 号）により常勤館長等に申し込まなければならない。

- 2 陶磁文化館が資料の寄託又は出品を所有者に依頼するときは、資料寄託・出品承諾書（別記様式第 6 号）により所有者の承諾を得なければならない。
- 3 寄託の申し込みのあった資料で常勤館長等が認めたもの又は寄託の承諾を得た資料については、寄託資

料受入調書（別記様式第7号）を作成し、受入れを決定するものとする。

- 4 前項の規定により寄託の受入れを決定したときは、資料寄託契約書（別記様式第8号）により契約を締結した後、寄託資料台帳（別記様式第9号）にその旨を登載するものとする。
- 5 展覧会への出品及び研究等のため短期間資料を預かるときは、出品者又は所有者に対し、資料一時預り証（別記様式第10号）を発行するとともに、一時預り資料台帳（別記様式第11号）にその旨を登載するものとする。ただし、企画展のための一時預りについてはこの限りではない。
- 6 埋蔵文化財（出土品）等所有権が確認できない資料について、現にその資料を管理している者から寄託及び出品の申し込みがあった場合又は同人に依頼する場合の手続については、当該管理している者を所有者とみなして前各項の規定を適用する。
- 7 佐賀県出土の埋蔵文化財のうち、国の保有する重要文化財等を1年以上継続して借用する場合は、第4項及び第5項の規定にかかわらず、国保有重要文化財等借用台帳（別記様式第12号）にその旨を登載する。

（資料の整理）

- 第6条 第3条及び第4条の規定により受け入れた資料は、当該資料一件ごとに資料カード（別記様式第13号）を作成し、整理しなければならない。
- 2 前項の資料には、資料ラベル（別記様式第14号）を貼付し、又は紐付けをして整理しなければならない。ただし、貼付し、又は紐付けすることが困難なときは、マーキングを施す等の適当な方法により整理するものとする。
 - 3 前条第4項に規定する寄託資料及び前条第7項の国保有重要文化財等については、前2項の規定を適用する。この場合において、前2項に規定する様式については、すべて赤枠で表示し区別するものとする。

（資料の貸出し）

- 第7条 資料の貸出しは、原則として行わないものとする。ただし、教育、学術及び文化に関する機関、団体等が行う展示会に貸し出す場合で、資料の保管について十分な管理体制がとられると認められるときは、業務に支障がない場合に限り、常勤館長等が貸出しを許可することができる。
- 2 前項ただし書きの規定により貸出しを受けようとする者は、資料借用申請書（別記様式第15号）又はこれに準ずる申請書を常勤館長等に提出しなければならない。この場合において、貸出しを受けようとする資料が寄託品、一時預り資料又は国保有重要文化財等であるときは、所有者（第5条第6項に規定する場合は、当該資料を管理している者。第8条第2項において同じ。）の承諾書又はその写しを添付しなければならない。
 - 3 常勤館長等は、前項の申請により貸出しを許可したときは、資料貸出台帳（別記様式第16号）にその旨を登載し、申請者に対し資料貸出許可書（別記様式第17号）を交付するものとする。また、貸出しに際しては、借受人から借用書を提出させるものとする。
 - 4 資料の貸出しを行なう場合又は返納を受ける場合は、物品出納員並びに担当学芸員が立会し、受渡し又は受取りを行うものとする。この場合において、資料に破損、汚損又は亡失があったときは、常勤館長等は借受人に対し必要な指示をするとともに損害の賠償を請求するものとする。

（資料の公開・特別利用）

- 第8条 資料の公開は、陶磁文化館が主催して展示を行うとき又は前条の規定により貸出すとき以外には行

わない。ただし、学術上の調査研究、文化振興等の目的で資料の閲覧、撮影、フィルム等画像原稿借用、印刷物・電子媒体等での画像使用、複製等（以下「特別利用」という。）を求められたときは、資料の保存及び業務に支障がない場合に限り、常勤館長等は条件を付してその利用を許可することができる。

- 2 前項ただし書きの規定により許可を得ようとする者は、資料特別利用許可申請書（別記様式第18号）又はこれに準ずる申請書を常勤館長等に提出しなければならない。この場合において、許可を得ようとする資料が寄託品、一時預り資料又は国保有重要文化財等であるときは、所有者の承諾書又はその写しを添付しなければならない。
- 3 常勤館長等は、前項の申請により特別利用を許可したときは、資料特別利用許可簿（別記様式第19号）にその旨を登載し、当該申請者に資料特別利用許可書（別記様式第20号）を交付するものとする。
- 4 資料の閲覧、撮影等実物の取扱を伴う特別利用は、担当学芸員の立会いのもとで行い、その指示に従わなければならない。
- 5 印刷物掲載等の画像使用を行った場合は、利用後速やかに成果品を常勤館長等に提出しなければならない。電子媒体による出版又は放送等で映像を使用した場合もこれに準ずる。

（補足）

第9条 この規定に定めるもののほか、資料の取扱いについて必要な事項は、別に常勤館長等が定める。

附 則

この規程は、昭和61年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

佐賀県立九州陶磁文化館施設等の使用に関する取扱要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、佐賀県立九州陶磁文化館の管理に関する規則（昭和55年佐賀県教育委員会規則第5号）第14条の規定に基づき、佐賀県立九州陶磁文化館の施設及び附属設備（以下「施設等」という。）の使用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(使用の申込み)

第2条 九州陶磁文化館の施設等の使用をしようとする者は、使用日の1月前までに、九州陶磁文化館施設等使用申込書（以下「申込書」という。）（様式第1号）を館長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、館長が特に認めた場合は、申込期限を経過しても申込書を提出することができる。

(使用の承認等)

第3条 館長は、申込書を提出した者に対し、施設等の使用を認める場合は、九州陶磁文化館使用承認書（様式第2号）を交付するものとする。

2 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、使用を承認しないものとする。

- 一 営利を主たる目的とするとき。
- 二 館内の秩序を乱すおそれがあるとき。
- 三 館の資料及び施設等を損傷し、又は滅失するおそれがあるとき。
- 四 集団的又は常習的に暴力的行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- 五 その他管理上支障があると認められるとき。

(使用目的の変更等の禁止)

第4条 前条第1項の規定により使用の承認を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用目的を変更し、又は使用の権利を譲渡し、若しくは他に転貸することができない。

(使用者の義務)

第5条 使用者は、使用に当たり次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 定員を超えて入場させないこと。
- 二 使用目的以外の物品の販売若しくは陳列又は公告物の掲示若しくは配布をしないこと。
- 三 館の資料及び施設等を毀損しないこと。
- 四 その他館長の指示に従うこと。

(使用承認の取消し等)

第6条 館長は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、使用の承認を取り消し、又は使用の中止を命ずることができる。

- 一 申込書の内容に偽りがあった場合
- 二 その使用が第3条第2項各号のいずれかに該当することが明らかとなった場合
- 三 前二条の規定に違反した場合

2 前項の規定により使用の承認を取り消され、又は使用の中止を命ぜられたことにより使用者に損害を生ずることがあっても、これに対する補償は行わないものとする。

(弁償)

第7条 使用者は、施設等の使用において資料又は施設等を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の対価をもって弁償しなければならない。

2 使用者は、使用目的である講演、会議、交流会その他の会合に参加している者が前項に掲げる行為を行った場合についても、館長の指示に従い、現品又は相当の対価をもって弁償しなければならない。

(光熱水費の負担)

第8条 館長は、使用者が使用に際して相当の電気又は水道等の使用を伴う場合は、当該使用の目的及び使用実態等を勘案して、当該使用者に対して相当の光熱水費の負担を求めるものとする。

2 使用者は、前項の規定により、館長から光熱水費の負担を求められた場合は、指示された期限までに納入しなければならない。

(収益等を伴う場合の取扱い)

第9条 施設等を使用する際に、収益を伴う使用及び観覧料等を徴する使用の場合については、この要領にかかわらず佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）第19条及び第20条の規定に基づき処理するものとする。

附 則

この要領は、平成20年11月1日から施行する。

この要領は、平成22年1月1日から施行する。

様式第1号 九州陶磁文化館施設等使用申込書（略）

様式第2号 九州陶磁文化館使用承認書（略）

事業日誌

- 平成 28. 4.29 「第 113 回 有田国際陶磁展」 (～5.8) (第 1 部美術工芸品・オブジェの部)
- 5.31 「第 25 回 陶千坊展」 (～6.5)
- 6.15 「第 37 回 九州新工芸展」 (～6.26)
7. 1 「佐賀県有田焼創業 400 年事業 メゾン・エ・オブジェ帰国展」 (～7.18)
- 7.24 「第 55 回 日本現代工芸美術佐賀・有田巡回展」 (～8.7)
- 8.26 年報・資料目録 (平成 27 年度 No.35) 刊行
- 8.26 25 平成 26 年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会
- 8.11 「佐賀県有田焼創業 400 年事業 特別企画展 人間国宝と三右衛門」 (～9.25)
- 8.11 佐賀県有田焼創業 400 年事業 USEUM ARITA (～12.25) ※
※佐賀県有田焼創業 400 年実行委員会 アプローチデッキ特設会場
- 8.16 「有田窯業大学校同窓会展」 (～8.21)
9. 3 「第 15 回 伊万里・有田焼伝統工芸士展」 (～9.11)
10. 7 「有田焼創業 400 年事業 特別企画展 日本磁器誕生」 (～11.27)
12. 9 「有田焼創業 400 年事業 特別企画展 日本磁器の源流」 (～1.15)
- 平成 29.1.24 「第 48 回 有田工業高等学校卒業制作展」 (～1.29)
- 1.31 「第 35 回 西松浦郡小・中学校学童美術展」 (～2.5)
- 2.14 「陶芸教室 OB 有志の作品展」 (～2.19)
- 2.21 「第 31 回 有田窯業大学校卒業制作展」 (～2.26)
- 2.25 平成 28 年度 第 1 回・第 2 回 陶芸文化講座 (午前・午後)
3. 7 「第 28 回 九州陶磁器デザイナー協会展」 (～3.12)
3. 4 「第 32 回 有田陶交会展」 (～3.20)

展 示 活 動

1. 常設展

当館の常設展は4つの展示室からなり、九州陶磁の歴史と特色が、順を追って把握できるように構成されています。

順路は第4展示室（固定展示室）から始まり、第5展示室（柴田夫妻コレクション）、第3展示室（九州の古陶磁）を經由して第2展示室（現代の九州陶芸）で終わります。

内容的には九州の陶磁の基礎的学習ができる第4展示室、江戸時代の有田磁器を展示した柴田夫妻コレクションの第5展示室、九州の古陶芸を鑑賞する第3展示室、九州の現代陶芸を鑑賞する第2展示室というそれぞれの特色があります。

これらの展示は、第2・3展示室は平成27年12月12日に展示内容を一新しました。

大規模な企画展が開かれる場合は、固定展示室、柴田夫妻コレクション展示室を除いて他の2室は一時的に撤収し、対応しています。

(1) 固定展示室（第4展示室）

この展示室では、やきものについての基礎的な知識をはじめ、中国・朝鮮国の強い影響のもと、日本の、とりわけ九州の陶磁器がどのように発展してきたか、古代・中世から近世・近代までの流れを紹介しています。特に、肥前で生産された磁器については、その生産の技術や国内での流通及び海外との貿易についても説明しています。また、陶器や磁器の具体的な製作工程や装飾技法についても学ぶことができます。

展示内容を詳しく解説した冊子「土と炎」を刊行しています。

なお、江戸時代に海外輸出された有田焼の蒲原コレクション101点は、この展示室で御覧になれます。

会 期 平成28年4月1日～平成29年3月31日

休館日の月曜日と年末の休館日

（12/29～12/31）を除く

展 示 室 第2展示室、第3展示室及び展示ホール

第4展示室（固定展示室）

第5展示室（柴田夫妻コレクション展示室）

入 館 者 89,639人 1日平均282人（317日）



展示ホール

【展示内容】

1. やきものの基礎知識
2. 中国・朝鮮の陶磁の流れ
3. 日本の陶磁の流れ
4. 九州陶磁の展開（タッチパネル）
5. 九州の陶器
6. 磁器の始まり
7. 有田・大川内山の登窯
8. 窯跡復元模型
9. 九州の磁器
10. 古伊万里とオランダ貿易
11. ヨーロッパの古伊万里
12. 蒲原コレクション
13. 近代の九州陶磁
14. 装飾技法
15. 陶片にみる肥前のやきもの
16. 陶器と磁器の制作工程



第4展示室

(2) 柴田夫妻コレクションの展示（第5展示室）

柴田明彦・祐子夫妻から、平成2年より15年にかけて寄贈していただいた江戸時代の有田磁器10,311点の中から477件1,058点を常設展示しています。

このコレクションの特徴は、有田磁器の歴史の変遷がわかるように各時代の様々な種類の作品が網羅されている点にあります。

この展示室では次のようなコーナーを設けて、有田磁器の様式の特徴、技術の変化、器種別の変遷などを紹介しています。

会 期 平成27年12月～平成29年2月

【コーナー】

1. 年代による変遷
2. 名前のつけ方
3. 磁器の種類
4. 江戸時代の食膳
5. 器を現代に生かす
6. 植物の文様と形
7. 動物の文様と形
8. 器物の文様と形
9. 出土陶片との比較



年代による変遷コーナー



形の変遷コーナー

(3) 九州の古陶磁（第3展示室）

常設展「九州の古陶磁」は、佐賀・長崎・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の九州各県に分けて、江戸時代のやきものを紹介しています。

唐津焼の陶器に始まる肥前のやきものは、日本初の磁器を産み出した後、その発展にともない初期伊万里、柿右衛門様式、鍋島藩窯様式など様々な陶磁器を産み出してきました。

また、九州各県に点在する茶陶の名窯や日常生活の中で愛された民窯では、地域色豊かな陶器や磁器が焼かれています。館蔵品を中心にした展示総数は90件116点です。

会 期 平成27年12月～平成28年7月

(会期中企画展等のため一時的に撤収される場合がある)

【展示内容】	〈構成〉
佐賀	佐賀【63件87点】
1. 唐津系陶器	1. 唐津系陶器 15件19点
2. 古伊万里・初期伊万里様式	2. 古伊万里・初期伊万里様式 4件10点
3. 古伊万里・正保様式	3. 古伊万里・正保様式 5件5点
4. 古伊万里・寛文様式	4. 古伊万里・寛文様式 4件4点
5. 古伊万里・延宝・柿右衛門様式	5. 古伊万里・延宝・柿右衛門様式 4件5点
6. 古伊万里・元禄様式	6. 古伊万里・元禄様式 5件10点
7. 古伊万里・宝暦・天明・文政様式	7. 古伊万里・宝暦・天明・文政様式 9件11点
8. 鍋島藩窯	8. 鍋島藩窯 17件23点
九州	九州【27件27点】
9. 長崎の陶磁器	9. 長崎の陶磁器 5件5点
10. 福岡の陶磁器	10. 福岡の陶磁器 5件5点
11. 熊本の陶磁器	11. 熊本の陶磁器 3件3点
12. 宮崎・大分の陶磁器	12. 大分・宮崎の陶磁器 2件2点
13. 鹿児島の陶磁器	13. 鹿児島の陶磁器 6件6点
14. 沖縄の陶磁器	14. 沖縄の陶磁器 6件6点

【九州の古陶磁 展示目録】 2016. 1. 28 ～

No.	作品名	点数	収蔵番号	生産地	年代	寄贈者・コレクション名
1. 【 唐津系陶器 】						
1	灰釉彫文茶碗 銘「玄海」 佐賀県重要文化財	1	-	肥前 岸岳・飯洞甕窯	1580～1590年代	個人蔵(寄託)
2	藁灰釉壺(斑唐津)	1	07396	肥前 岸岳	1580～1590年代	佐賀県立九州陶磁文化館
3	灰釉叩き壺	1	-	肥前 岸岳	1580～1600年代	個人蔵(寄託)
4	灰釉茶碗(皮鯨手)	1	06810	肥前	1590～1610年代	佐賀県立九州陶磁文化館
5	鉄絵菘文壺(絵唐津)	1	00029	肥前	1590～1610年代	佐賀県立九州陶磁文化館
6	藁灰釉褐釉流掛三耳壺	1	06788	肥前	1590～1610年代	佐賀県立九州陶磁文化館 竹田礎智夫氏 寄贈
7	象嵌文双耳水指	1	06025	肥前 大草野窯	1610～1630年代	佐賀県立九州陶磁文化館
8	緑釉蛇ノ目釉剥小皿	5	03530	肥前 内野山窯	17世紀末～18世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館 川内賢一氏 寄贈
9	打刷毛目文双耳広口花瓶	1	00411	肥前 武雄	1690～1740年代	佐賀県立九州陶磁文化館
10	鉄絵緑彩型紙摺唐花唐草文大皿 佐賀県重要文化財	1	03256	肥前 武雄	1610～1640年代	佐賀県立九州陶磁文化館
11	鉄絵緑彩松文甕	1	03264	肥前 武雄	1630～1670年代	佐賀県立九州陶磁文化館
12	呉須絵山水文水瓶(京焼風陶器)	1	02239	肥前	1660～1690年代	佐賀県立九州陶磁文化館
13	象嵌雲鶴文大皿(献上唐津)	1	00847	肥前 唐津・御茶盃窯	19世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
14	呉須絵金魚文鉢(献上唐津)	1	06836	肥前 唐津・御茶盃窯	18世紀後半～19世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏 寄贈
15	褐釉達磨像	1	06813	肥前 唐津	19世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
2. 【 古伊万里・初期伊万里様式 】						
16	染付花唐草文小皿	7	13354	肥前 有田	1610～1630年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴澤一仁氏 寄贈
17	染付山水文水指 佐賀県重要文化財	1	05659	肥前 有田・小溝窯カ	1610～1630年代	佐賀県立九州陶磁文化館
18	銹瑠璃釉飛龍文瓢形瓶	1	00696	肥前 有田	1630～1650年代	佐賀県立九州陶磁文化館
19	青磁辰砂篋彫葉文水指	1	06031	肥前	1630～1640年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
3. 【 古伊万里・正保様式 】						
20	染付山水文輪花大皿 重要文化財	1	00631	肥前 有田・山辺田窯	1640～1650年代	佐賀県立九州陶磁文化館 今泉吉郎氏 寄贈
21	色絵菊蝶文台付皿	1	02314	肥前 有田・山辺田窯カ	1640～1650年代	佐賀県立九州陶磁文化館
22	色絵葡萄栗鼠文瓢形瓶	1	05284	肥前 有田	1650年代	佐賀県立九州陶磁文化館
23	色絵竹虎文大皿 佐賀県重要文化財	1	04565	肥前 有田	1650～1660年代	佐賀県立九州陶磁文化館
24	色絵印判手唐獅子牡丹文輪花大皿	1	12448	肥前 吉田	1650～1660年代	佐賀県立九州陶磁文化館

4. 【 古伊万里・寛文様式 】

25	色絵梅花散文手付水注	1	06818	肥前 有田	1650～1660 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
26	色絵桜花文瓢形瓶（仁清手）	1	03423	肥前 有田	1655～1670 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
27	陶胎染付雲堂文香炉	1	12449	肥前 有田・大樽山	寛文二年（1662 年）	佐賀県立九州陶磁文化館
28	青磁七宝透文桃耳付広口瓶	1	06857	肥前 有田	1660～1690 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏 寄贈

5. 【 古伊万里・延宝・柿右衛門様式 】

29	色絵唐獅子牡丹文十角皿 （柿右衛門様式） 佐賀県重要文化財	1	02012	肥前 有田・南川原山	1670～1690 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
30	色絵菊牡丹文角瓶（柿右衛門様式）	1	00301	肥前 有田・南川原山	1670～1690 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
31	色絵唐獅子置物（柿右衛門様式）	2	00603	肥前 有田	1670～1690 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
32	染付楼閣山水文瓢形瓶	1	00307	肥前 有田	1670～1700 年代	佐賀県立九州陶磁文化館

6. 【 古伊万里・元禄様式 】

33	色絵桜樹群馬文蓋付壺・広口瓶 佐賀県重要文化財	5	02317	肥前 有田	1690～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
34	色絵赤玉雲龍文鉢	1	00606	肥前 有田	1690～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
35	青磁色絵龍虎文大皿	1	06064	肥前 有田	1700～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
36	色絵鳳凰菊花文八角皿	2	00473	肥前 有田	1700～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
37	色絵竹梅菊鳳凰文角皿	1	07382	肥前 有田	1700～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 ジョン・コーツ氏 寄贈
37 参	色絵竹梅菊鳳凰文角皿	1	07383	中国 景德鎮	1730～1750 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 ジョン・コーツ氏 寄贈

7. 【 古伊万里・宝暦・天明・文政様式 】

38	色絵鶴仙人牡丹文角瓶	1	06886	肥前 有田	1750～1770 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏 寄贈
39	色絵百子堂文皿	1	06121	肥前 有田	1770～1790 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
40	瑠璃釉金彩団龍文扇形皿 （6点のうち3点）	3	00217	肥前 有田	1780～1820 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 鹿島鍋島家 寄贈
41	染付桜樹文大鉢	1	06134	肥前 有田・辻カ	1770～1820 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
42	色絵花卉文植木鉢	1	05910	肥前 有田	1780～1840 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
43	染付山水文香炉	1	03429	肥前 有田・辻	19 世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
44	色絵曆文小碗	1	06615	肥前 有田	天保十一年（1840 年）頃	佐賀県立九州陶磁文化館 百溪正明氏 寄贈
45	染付芦雁竹雀文角形大皿	1	00224	肥前 有田	1810～1850 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 鹿島鍋島家 寄贈
46	染付富士松原文輪花大皿	1	06910	肥前 志田	1820～1860 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏 寄贈

8. 【 鍋島藩窯 】

47	青磁染付寿字桃宝尽文雲形大皿	1	06953	肥前 鍋島藩窯	1690～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏 寄贈
48	色絵群馬文変形皿 佐賀県重要文化財	5	06033	肥前 有田・岩谷川内	1650 年代頃	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション

49	色絵薄瑠璃唐花文菱形皿	1	00693	肥前 鍋島藩窯	1660～1680 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
50	色絵菊唐草文皿	1	00005	肥前 鍋島藩窯	1670～1690 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
51	染付錆釉茄子文皿	1	00456	肥前 鍋島藩窯	1670～1690 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
52	染付菊唐草文皿	1	00163	肥前 鍋島藩窯	1690～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
53	色絵絵草紙文皿	1	00173	肥前 鍋島藩窯	1690～1720 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 鹿島鍋島家 寄贈
54	染付蘭撫子文輪花皿	1	00660	肥前 鍋島藩窯	1700～1730 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
55	色絵花東文小皿 (10 点のうち 2 点)	2	05962	肥前 鍋島藩窯	1710～1740 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
56	青磁色絵唐花文皿	1	00833	肥前 鍋島藩窯	1730～1770 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
57	青磁陽刻唐花唐草文水指	1	00058	肥前 鍋島藩窯	18 世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
58	色絵更紗文香炉	1	00762	肥前 鍋島藩窯	1690～1720 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
59	染付梅樹文盃台	1	06210	肥前 鍋島藩窯	19 世紀前半～中葉	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
60	染付松竹梅文三組盃	3	05912	肥前 鍋島藩窯	19 世紀前半～中葉	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
61	染付松宝珠文大皿	1	06199	肥前 鍋島藩窯	1750～1770 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 白雨コレクション
62	染付桃樹文大皿	1	06955	肥前 鍋島藩窯	1780～1810 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 高取紀子氏 寄贈
63	染付桃花文大皿	1	00233	肥前 鍋島藩窯	1780～1820 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 鹿島鍋島家 寄贈
9. 【 長崎の陶磁器 】						
64	青磁染付菊流水文三足大皿	1	00823	肥前 波佐見・長田山窯	1680～1700 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
65	染付雲龍麒麟文龍耳付花生	1	00020	肥前 三川内	19 世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
66	刷毛目藤文角皿	1	00803	肥前 現川	1690～1740 年代	佐賀県立九州陶磁文化館 竹田恒夫氏 寄贈
67	染付雪景山水文段重	1	00136	肥前 龜山	1800～1860 年代	佐賀県立九州陶磁文化館
68	陰刻龍文水指	1	00112	対馬 対州・志賀窯	18 世紀末～19 世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
10. 【 福岡の陶磁器 】						
69	鉄絵線文筒茶碗	1	02682	豊前 上野・釜ノ口窯	17 世紀初頭	佐賀県立九州陶磁文化館
70	藁灰釉鉄釉掛分沓茶碗	1	00826	筑前 高取・内ヶ磯窯	17 世紀初頭	佐賀県立九州陶磁文化館
71	褐釉彫文双耳掛花生	1	06675	筑前 高取・内ヶ磯窯	17 世紀初頭	佐賀県立九州陶磁文化館
72	褐釉肩衝茶入	1	04850	筑前 高取・白旗山窯	17 世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
73	白磁型紙白絵梅樹文鉢	1	02238	筑後 朝妻	18 世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
11. 【 熊本の陶磁器 】						
74	鉛釉肩衝茶入	1	05198	肥後 八代	17 世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
75	灰釉魚形鉢	1	00700	肥後 小代	18 世紀末～19 世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
76	染付椿鳥文大皿	1	02271	肥後 網田	18 世紀末～19 世紀	佐賀県立九州陶磁文化館

12. 【 大分・宮崎の陶磁器 】

77	呉須絵龍文耳付仏花器	1	00726	日向 蓬來山(丸山)	19世紀中葉	佐賀県立九州陶磁文化館
78	流掛釉水注	1	00725	豊後 小鹿田	19～20世紀	佐賀県立九州陶磁文化館

13. 【 鹿児島島の陶磁器 】

79	灰釉茄子形茶入	1	04571	薩摩 豎野窯系	17世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
80	二彩釉瓶	1	00570	薩摩 龍門司	18世紀後半～19世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
81	黒釉貼付恵比寿福字文甕	1	00544	薩摩 苗代川	17世紀後半～18世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
82	染付山水文鉢	1	06700	薩摩 平佐	文化十年(1813年)	佐賀県立九州陶磁文化館
83	灰釉笹文竹形花生	1	00564	種子島 能野	18世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
84	象嵌文瓶	1	00333	薩摩 豎野窯系	18世紀～19世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館

14. 【 沖縄の陶磁器 】

85	象嵌文瓶	1	00417	琉球 壺屋	18世紀	佐賀県立九州陶磁文化館
86	黒釉瓶	1	04862	琉球 喜名か知花	17世紀後半～18世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
87	鉄絵草文碗	1	00525	琉球 湧田	17世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
87 参	染付雲文碗	1	04861	中国 広東・福建	17世紀後半～18世紀前半	佐賀県立九州陶磁文化館
88	褐釉緑釉掛分筒形花生	1	00486	琉球 壺屋	18世紀中葉～後半	佐賀県立九州陶磁文化館
89	鉄釉灰釉掛分輪繫文渡名喜瓶	1	00509	琉球 壺屋	18世紀後半	佐賀県立九州陶磁文化館
90	褐釉瓢形瓶	1	04865	琉球・八重山	18世紀中葉～後半	佐賀県立九州陶磁文化館

計 90件 117点

展示作品



10 鉄絵緑彩型紙摺唐花唐草文大皿
佐賀県重要文化財
肥前 武雄 1610～1640年代



17 染付山水文水指
佐賀県重要文化財
肥前 有田・小溝窯カ 1610～1630年代



54 染付蘭撫子文輪花皿
肥前 鍋島藩窯 1700～ 1730年代



65 染付雲龍麒麟文龍耳付花生
肥前 三川内 19世紀前半



64 青磁染付菊流水文三足大皿
肥前 波佐見・長田山窯 1680～1700年代

(4) 現代の九州陶芸 (第2展示室)

歴史的に多様な展開がみられる九州の陶芸は、それぞれ茶陶として、また商品性の高い美術工芸品として、あるいは民陶として今日に受け継がれています。

こうしたなかで、創作的な活動を続けている陶芸作家を選び、その代表作を一堂に紹介したのが第2展示室の「現代の九州陶芸」です。現在、九州6県の99名による作品を展示しています。県別では佐賀県が最も多く、次いで福岡県、鹿児島県の順となります。

展示室では、日本工芸会に所属している作家作品、さらに日展系・民陶系などの作家作品を御覧になれます。また水指・茶入など茶道具関連の作品も鑑賞できます。なお、芸術院会員や重要無形文化財保持者の作品は展示ホール(有田焼からくりオルゴール時計横)に展示しています。また、寄贈いただいた青木龍山作品を毎月5~6点ずつ展示ホールに展示しています。伝統的な陶芸技術を駆使した作品から、従来の陶芸技術とはおもむきの異なる前衛的な作品までが展示され、陶芸文化の多様性が示されています。

会期 平成29年1月~平成29年9月 (会期中企画展等のため一時的に撤収される場合がある)

所属別構成		県別構成	
日本工芸会	58名	佐賀県	62名
日展系	31名	福岡県	18名
民陶系	2名	鹿児島県	9名
無所属		長崎県	5名
日本工芸会	58名	熊本県	4名
計	99名	大分県	1名
		計	99名

常設展 現代の九州陶芸

展示目録 2017.1~2017.9 展示総数99件 108点

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
1	青木龍山	佐賀	連作「胡沙の舞」	平成3年(1991)		日展
2	井上萬二	佐賀	白磁緑釉椿彫文面取壺	平成10年(1998)	館蔵	日本工芸会
3	14代 酒井田柿右衛門	佐賀	濁手撫子文大皿	平成10年(1998)	館蔵	日本工芸会
4	中島宏	佐賀	青瓷線彫文壺	平成21年(2009)		日本工芸会
5	中里逢庵	佐賀	叩き三島象嵌貝焼締魚文壺	平成13年(2001)	第33回日展出品作	日展
6	14代今泉今右衛門	佐賀	色絵薄墨墨はじき雪文鉢	平成24年(2012)	館蔵	日本工芸会
7	富村繁雄	佐賀	玳瑁蟹文扁壺	平成24年(2012)	第24回知新会展出品作	日展
8	寺崎康子	佐賀	風の銀河	平成28年(2016)		日展
9	石橋國男	佐賀	張	平成17年(2005)	第27回日本新工芸展出品作	日展
10	今村博	佐賀	流双	平成27年(2015)	第30回日展出品作	日展
11	浦郷好文	佐賀	早春-2015-	平成27年(2015)	第37回日本新工芸展出品作	日展
12	照井一玄	佐賀	潮韻	平成2年(1990)	1990年 フレッチャーチャレンジ国際陶芸展入選姉妹作品	日展
13	熊本千治	佐賀	蒼刻彩器	平成22年(2010)		日展
14	白武初芳	佐賀	天空の峰	平成25年(2013)	第35回日本新工芸展出品作	日展
15	田中忍	佐賀	始夏	平成8年(1996)	第46回 佐賀県美術展 文部大臣奨励賞	日展
16	辻聡彦	佐賀	「波立つ」	平成14年(2002)	第99回九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞 館蔵	日展
17	大宅利秋	佐賀	流栄	平成27年(2015)	平成27年第65回佐賀県展出品作	日展
18	中島康夫	佐賀	磁線	平成20年(2008)	第29回九州新工芸展出品作	日展
19	嶋田敏生	佐賀	風紋	昭和59年(1984)	第81回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	無所属
20	松尾重利	佐賀	包	平成26年(2014)		日展

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
21	福島 清海	佐賀	象嵌焼締壺	平成2年 (1989)	第12回日本新工芸展出品作	日展
22	藤井 剛	佐賀	流水-2004	平成16年 (2004)	第43回日本現代工芸美術展出品作	日展
23	馬場 九洲夫	佐賀	山景13	平成25年 (2013)	第45回日展出品作	日展
24	松尾 博之	佐賀	氷雪の華	平成25年 (2013)	第55回日本現代工芸美術展出品作	日展
25	前田 泰昭	佐賀	西海の詩	平成27年 (2015)	第55回日本現代工芸美術展出品作	日展
26	宮尾 正隆	佐賀	波紋	平成28年 (2016)		日展
27	岩田 義實	佐賀	方	平成27年 (2015)	第6回菊池ビエンナーレ展出品作	無所属
28	藤ノ木 土平	佐賀	唐津灰被台付多面壺	平成25年 (2013)		無所属
29	大橋 裕	佐賀	絵唐津草文皿	平成23年 (2011)	第58回日本伝統工芸展出品作	無所属
30	斉藤 勉作	大分	黝木の葉蓋付壺	平成23年 (2011)		日本工芸会
31	貞松 善次	佐賀	晨光	平成25年 (2013)	第45回日展入選作姉妹品	日展
32	高木 清次	長崎	透貝香炉	平成15年 (2003)		日展
33	井上 俊一	福岡	錫白瑠璃金銀彩方器	平成19年 (2007)	館蔵	無所属
34	世良 彰彦	福岡	藪椿“ある庭に見る風景”	平成28年 (2016)	日本現代工芸美術展出品作	日展
35	中森 久明	福岡	湖畔	平成20年 (2008)		日展
36	高鶴 元	福岡	色釉金彩茶入	平成22年 (2010)		無所属
37	太田 孝宏	福岡	飴釉指描紋壺	平成16年 (2004)		民陶
38	井上 泰秋	熊本	ワラ白打掛流大皿	平成24年 (2012)	第22回日本陶芸展出品作	民陶
39	有山 禮石	鹿児島	宙-Ⅲ	平成25年 (2013)	第68回南日本美術展委嘱作家出品作	日展
40	有山 長佑	鹿児島	爽夏影	平成24年 (2012)	第44回日展出品作	日展
41	厚東 孝治	鹿児島	弥生-緑壁	平成26年 (2014)	第53回日本現代工芸美術展出品作	日展
42	久保 満義	鹿児島	回帰 2014・I	平成26年 (2014)	第53回日本現代工芸美術展出品作	日展
43	高田 さとこ	鹿児島	霞光-12・C	平成24年 (2012)	第30回記念南日本女流美術展	日展
44	井上 康徳	佐賀	白磁青釉円刻文鉢	平成24年 (2012)	2013年日本陶芸展入選作	日本工芸会
45	江口 勝美	佐賀	和紙染刳抜更紗軸管	平成9年 (1997)	館蔵	日本工芸会
46	江口 康成	佐賀	呉須幾何文花器	平成15年 (2003)		日本工芸会
47	勝田 文博	佐賀	和紙染柳文花器	平成27年 (2015)		日本工芸会
48	小笠原 長春	佐賀	鍋島青磁唐草彫染付壺	平成20年 (2008)		日本工芸会
49	梶原 茂正	佐賀	月白壺	平成24年 (2012)		日本工芸会
50	奥川 俊右衛門	佐賀	青白磁百合口牡丹花瓶	平成25年 (2013)		日本工芸会
51	金子 認	佐賀	叩き壺	平成25年 (2013)		日本工芸会
52	河口 純一	佐賀	釉裏彩華文花器	平成元年 (1989)	第36回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
53	熊本 義泰	佐賀	青磁線文壺	平成22年 (2010)	第46回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
54	坂本 義弘	佐賀	染華銀彩鉢	平成15年 (2003)	佐賀陶芸協会展出品作	日本工芸会
55	庄村 健	佐賀	紅染深鉢	昭和63年 (1988)	第85回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
56	中尾 英純	佐賀	和紙染格子文花生	平成16年 (2004)	第51回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
57	中尾 恭純	佐賀	四方襷文彩色象嵌面取花生	平成20年 (2008)	第105回九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
58	中尾 龍純	佐賀	釉裏紅紫陽花鉢	平成10年 (1998)	第96回九州山口陶磁展出品作	日本工芸会
59	西山 宗元	佐賀	絞り釉銀彩線文鉢	平成25年 (2013)	第60回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
60	西山 正	佐賀	青白磁千段深鉢	平成7年 (1995)	第92回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
61	納所 正一	佐賀	白磁鉢	平成17年 (2005)		日本工芸会
62	松尾 潤	佐賀	塩窯彩壺	平成26年 (2014)	第50回記念西部伝統工芸展 出品作	日本工芸会
63	野中 拓	佐賀	天目幾何文花入	平成26年 (2014)		日本工芸会
64	宮崎 祐輔	佐賀	紅錦銀彩六角陶管	平成25年 (2013)	第48回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
65	高森 誠司	佐賀	青白磁釉彩線文鉢	平成22年 (2010)	第58回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
66	山口文彦	佐賀	青白磁線文深鉢	平成21年(2009)	県展出品作	日本工芸会
67	矢鋪與左衛門	佐賀	青白磁偏壺	平成17年(2005)		日本工芸会
68	中村清吾	佐賀	白磁鉢	平成25年(2013)	第110回九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
69	松尾勝也	佐賀	艶釉点描彩深鉢「隆粒」	平成23年(2011)	佐賀県展出品作	日本工芸会
70	山口幹彦	佐賀	青白磁線彫鉢	平成20年(2008)	第56回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
71	川崎精一	佐賀	カサブランカ陰刻鉢	平成25年(2013)	県展入選作	日本工芸会
72	百田暁生	佐賀	青白磁器	平成28年(2016)		日本工芸会
73	14代中里太郎右衛門	佐賀	叩き唐津焼締壺	平成26年(2014)		日本工芸会
74	石原祥嗣	福岡	黒地金彩直弧文陶箱	平成21年(2009)	第106回九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
75	甲斐一	福岡	鉄釉窯変組鉢	平成28年(2016)	第51回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
76	熊谷善光	福岡	大壺	平成22年(2010)		日本工芸会
77	大村就康	福岡	泥彩花器	平成28年(2016)		日本工芸会
78	佐々木厚	福岡	象嵌花器	平成25年(2013)		日本工芸会
79	添田和信	福岡	刷毛目海波文壺	平成27年(2015)	第62回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
80	高鶴淳一	福岡	茶碗	平成28年(2016)		日本工芸会
81	太田秀隆	福岡	藁灰釉鉢	平成27年(2015)		日本工芸会
82	江口秀山	長崎	黄三彩壺	平成12年(2000)		日本工芸会
83	立井清人	長崎	埋め込み大鉢	平成18年(2006)	第104回九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
84	長野恵之輔	長崎	線彫深鉢 「海の中へ海の中へ行ってみ たいと思いませんか」	平成26年(2014)		日本工芸会
85	山口春利	長崎	白磁輪花壺	平成12年(2000)	第47回日本伝統工芸展入選作	日本工芸会
86	犬童又郎	熊本	天目線文壺	平成20年(2008)		日本工芸会
87	久保田烈工	熊本	青白磁流線文扁壺	平成2年(1990)	第87回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
88	福吉浩一	熊本	炭化線象嵌花器	平成23年(2011)	第46回西部伝統工芸展 熊本朝日放送賞受賞	日本工芸会
89	荒木幹二郎	鹿児島	苗代川線文壺	平成24年(2012)	第47回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
90	永吉一	鹿児島	鳥文鉢	平成25年(2013)	第68回南日本美術展出品作	日本工芸会
91	竹之内彬裕	鹿児島	抜絵ほおずき文金彩蓋物	平成25年(2013)		日本工芸会
92	尾前喜八郎	鹿児島	彩色花器	平成26年(2014)	第42回鹿児島陶芸展出品作	日本工芸会
93	福田忠夫	佐賀	炭化窯変壺	平成23年(2011)		無所属
94	徳澤守俊	福岡	朝鮮唐津零水指	平成26年(2014)	日本工芸会陶芸部会 新作陶芸展出品作	日本工芸会
95	溝上藻風	佐賀	唐津焼締茶盃	平成26年(2014)		日展
96	熊谷保興	福岡	上野たたき耳付水指			日本工芸会
97	13代高取八山	福岡	高取菱口水指	平成27年(2015)		無所属
98	熊谷無造	福岡	上野掛分三足水指	平成20年(2008)		日本工芸会
99	亀井楽山	福岡	高取七宝耳付掛分共蓋水指	平成25年(2013)		日本工芸会



7 富村 繁雄 佐賀
「玳瑁蟹文扁壺」
平成24年(2012)
第24回知新会展出品作



28 藤ノ木 土平 佐賀
「唐津灰被台付多面壺」
平成25年(2013)

2. 企画展・テーマ展など

(1) 第 113 回有田国際陶磁展

(第 1 部美術工芸品・オブジェの部)

趣 旨

我が国における磁器発祥の地、佐賀県有田町に日本全国の陶磁器製品を集め、一般の鑑賞に供し、技術の交流、品質の向上、デザインの改善を図り、伝統工芸の継承と産業的発展を期して、この陶磁展を開催します。〈開催要項より〉

審 査 評

前回は立体造形に力のある作品がいくつか出品され、それが賞に結びついたというような意味のことを書いたが、今回は器形、立体作品がほぼ拮抗し、それぞれに印象的な作品が出品され、賞を分け合った、ということができるだろう。

ただ飛びぬけてこれだという作品は出品されなかった。しかしそれは、受賞作品を見ていただければ分かるように、力強い作品がなかったというのではない。ここ 1、2 年で主要な公募展で大賞を受賞した作品にかなり近い作品が出品され、それらが今回、最も存在感を示していたということなのである。陶芸ないし工芸作品の制作側が、たかが 1、2 年でまったく新しい機軸を作り出すことなどはほとんど不可能で、また受賞側がそれを求めるのも意味のないことである。

公募展の顔である大賞作品ないし上位の賞選考では、他の公募展と差別化を図りたいという審査員の願望があり、そのジレンマの中で悩んだということである。そしてとどのつまり「出品された中で最も力のある作品を大賞に選ばばいいのである」という公募展の原点に立ち戻って賞選考を行ったのである。

文部科学大臣賞（第 1 位）の「切り継ぎ一廻一」は轆轤成形の円筒型を切り組み合わせたもので、轆轤のパワーと組み合わせの形のモダンなセンスが光る、現代陶造形の在り方の典型を見せる優れた作品である。

佐賀県知事賞「青白磁鉢」は見込みの曲面と口縁が斜行して交錯するといういわばモダンな錯視効果が新鮮である。

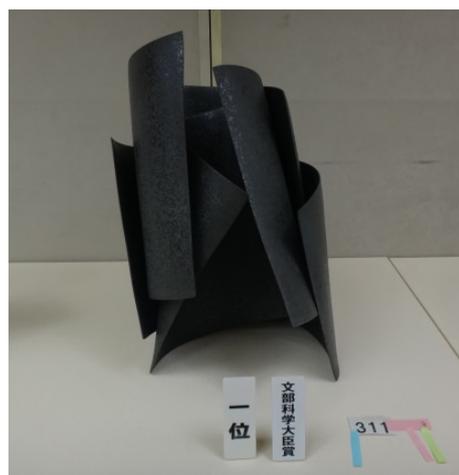
有田町長賞「風化」は前回の賞作品の流れにあるもので、一段とパワーアップしている。

以下、400 年記念賞から読売新聞社賞まで、器形作品にしても立体造形作品にしても、それぞれの作家の年来の作風の一段と進化した姿を見ることができた。これにわずかだが出品数が増加したことも含めて、公募展の質量相俟った復権傾向を指摘しうるかもしれない。他の公募展でも出品数がやや上向いているのである。

この傾向をぜひ強めつつ、国際公募展という側面を一層拡大し、未来に向けて大きく羽ばたいてもらいたいものである。

〈審査長 金子 賢治氏 審査評より抜粋〉

会 期	平成 28 年 4 月 29 日～5 月 8 日 (10 日間)
会 場	第 1・第 2 展示室
主 催	佐賀県・有田町・有田商工会議所
出品概要	入選 87 点 (うち入賞 16 点)
招待出品	5 点 (第 1 部)
目 録	A4 版 23 ページ カラー図版 37 点
入 館 者	6,162 人 1 日平均 616 人
審 査 員	(第 1 部) 金子 賢 治 茨城県陶芸美術館長 永 澤 永 信 日展会員 前 田 昭 博 日本工芸家常任理事



第一席 文部科学大臣賞「切り継ぎ 一廻一」

森山 寛二郎

第1部美術工芸品・オブジェの部 〈出品概要〉 () は昨年度分

県名	出品者数	出品点数	入選点数	入賞点数
山口県	5 (9)	5 (12)	3 (12)	0 (0)
福岡県	14 (12)	17 (15)	12 (11)	3 (2)
佐賀県	65 (61)	69 (65)	45 (53)	8 (7)
長崎県	11 (8)	11 (8)	9 (6)	2 (2)
熊本県	3 (5)	3 (5)	3 (2)	1 (2)
大分県	3 (2)	3 (2)	0 (0)	0 (0)
宮崎県	1 (3)	1 (3)	1 (1)	0 (0)
鹿児島県	2 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
沖縄県	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
全国	15 (7)	17 (8)	13 (5)	2 (1)
計	119 (108)	128 (120)	87 (88)	16 (14)



表彰式の様子

<有田国際陶磁展 入賞者名簿>

賞	入賞作品名	氏名	住所
文部科学大臣賞	切り継ぎ 一廻一	森山 寛二郎	福岡県朝倉郡東峰村
2位・佐賀県知事賞	青白磁鉢	中尾 純	佐賀県西松浦郡有田町
3位・有田町長賞	風化	沢田 一葉	熊本県熊本市
有田焼創業400年記念 佐賀県知事特別賞	方	岩田 義實	佐賀県佐賀市
	無限	松永 好昭	福岡県粕屋郡粕屋町
佐賀県陶芸協会賞	『流』	植木 薫	佐賀県多久市
朝日新聞社賞	Rin	畑石 修嗣	佐賀県伊万里市
熊本放送賞	曜変壺	藤井 正	佐賀県西松浦郡有田町
佐賀県商工会議所連合会賞	白陶	山本 昌弘	滋賀県近江八幡市
佐賀新聞社賞	地の章～Vessel of Earth・II～	興梠 宜伸	佐賀県武雄市
サガテレビ賞	教会の記憶	浦郷 正一郎	佐賀県武雄市
陶業時報社賞	紅彩・線紋壺	山口 淀	長崎県北松浦郡佐々町
西日本新聞社賞	泥彩綾杉文鉢	佐藤 宰治	福岡県嘉麻市
日刊工業新聞社賞	艶紅の姿	長岡 千陽	長崎県東彼杵郡波佐見町
日本経済新聞社賞	干潟—悠久の時	藤家 博美	佐賀県鹿島市
読売新聞社賞	香雨	宮島 正志	東京都北区

<招待作品>（審査員・重要無形文化財）

作 品 名	出 品 者 名	住 所
白瓷面取壺	前 田 昭 博（審査員）	鳥取鳥取市
驟 雨	永 澤 永 信（審査員）	兵庫県豊岡市
白磁黄緑釉鷺文方形花器	井 上 萬 二（重要無形文化財保持者）	佐賀県有田町
色絵薄墨墨はじき秋明菊文鉢	今泉 今右衛門（重要無形文化財保持者）	佐賀県有田町
青瓷線彫文盤	中 島 宏（重要無形文化財保持者）	佐賀県武雄市

（2）第25回 陶千坊展

趣 旨

陶千坊展は、県立有田窯業高等学校の絵付研修終了生による展覧会として始まりました。今では、陶芸家が「子どものように純真・純粋な心で焼き物を制作する仲間として集い、自由で平等な運営により相乗的な技術向上と発展を目指す」ことを趣旨として開催される陶芸展です。

第25回となる今回は、22名の陶芸家が自慢の新作を披露されます。

<広報用資料より>

会 期 平成28年5月31日～6月5日（6日間）
 会 場 第1展示室
 主 催 陶千坊
 後 援 佐賀県立九州陶磁文化館
 展示内容 陶芸作品全般（オブジェ、器、陶人形等）
 346点を展示
 入 館 者 960人 1日平均160人



展示風景

（3）第37回九州新工芸展

趣 旨

九州新工芸家連盟は生活のなかに求められ、生活を豊かにするための造形美を追求し、多様化する造形指向の中にある工芸の位置づけを明確にすることを目指す団体です。展覧会では会員・会友による作品及び一般公募による入選作品など未発表の作品が展示されます。<開催要項より>

会場を有田の佐賀県立九州陶磁文化館に移して二年目の開催である。静岡から日本新工芸家連盟理事長 中村武朗先生をお迎えして審査を行った。

公募・会友・会員ともに例年になく充実した作品が多く、長時間にわたり厳正な審査が行われた。

大賞の陶器「落陽の海」は西海の水平線を茜色に染めていく落日の情景を表現した秀作である。また、大分県知事賞「抱擁」は若い女性の作品で母と子の愛情に満ちた姿を軽やかな竹の素材を生かして表現している。ほか作品にも新たな表現や変化が見られ今後の更なる活躍が期待できる。 〈日本新工芸家連盟会長 前田泰昭氏 審査概評より〉

会 期 平成28年6月15日～6月26日（11日間）
 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
 主 催 九州新工芸家連盟
 後 援 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県
 宮崎県・鹿児島県・佐賀県立九州陶磁文化館
 読売新聞西部本社・NHK佐賀放送局・
 佐賀新聞社・サガテレビ



大賞「落陽の海」
吉澤 秀幸

展示内容 45点 (磁器5点・陶器9点・染色18点・竹工6点・人形4点・その3点)

出品目録 A4版4ページ

入館者 1,304人 1日平均119人

審査員
 中村 武朗 日本新工芸家連盟理事長
 鈴田 由紀夫 佐賀県立九州陶磁文化館
 居石 浩己 NHK佐賀放送局副局長
 小川 泰彦 日本新工芸家連盟顧問
 前田 泰昭 日本新工芸家連盟顧問
 武富 教子 日本新工芸家連盟審議員
 徳永 武洋 日本新工芸家連盟審議員
 猪立山 正史 日本新工芸家連盟審議員



展示風景

九州新工芸 28年度 受賞者リスト			
賞	入賞作品名	氏名	住所
大賞	落陽の海	吉澤 秀幸	大村市
福岡県知事賞	跡	猪立山 正史	福岡市
佐賀県知事賞	秋の舞	徳永 武洋	朝倉市
長崎県知事賞	どこから来たの？	古川 祥子	長崎市
大分県知事賞	抱擁	麻生 あかり	豊後高田市
熊本県知事賞	育芽	荒木 久仁子	天草市
宮崎県知事賞	蓮咲く	武富 教子	諫早市
鹿児島県知事賞	森の小径	足立 和子	久留米市
佐賀県立九州陶磁文化館賞	白の大地	井上 康	福岡市
城秀男賞	まぶしいひかりに	吉中 美遥	佐賀市
読売新聞西部本社賞	もっと もっと	青木 かのん	佐賀市
佐賀新聞社賞	雲海	白武 初芳	佐賀市
NHK佐賀放送局賞	亀裂	米澤 二郎	佐伯市
サガテレビ賞	截金棗 三点組	小林 尚子	小城市
奨励賞	線紋赤富士偏壺	松尾 喬	佐世保市
奨励賞	孫	山口 護	武雄市

(4) 佐賀県有田焼創業 400 年事業
メゾン・エ・オブジェ 帰国展

趣 旨

有田焼創業 400 年事業「ARITA400project」では、有田焼の欧州におけるブランディングと販路開拓を目指し、フランス パリで開催されている欧州最大級のインテリア・デザインの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に有田焼を出展する取組を 3 年連続で行ってきました。

本年 1 月に 3 回目の出展を終えたことから、この取組の成果である出展作品等を有田焼産地の事業者や県民の皆様にお披露目するとともに、有田から広く全国に向けて発信するため「メゾン・エ・オブジェ」帰国展を下記のとおり開催することといたしました。

<広報資料より>

会 期 平成 28 年 7 月 1 日～7 月 18 日 (16 日間)

会 場 エントランス ホール 第 1 展示室

主 催 有田焼創業 400 年事業推進グループ

展示内容 「メゾン・エ・オブジェ」に出展した作品等を展示。参加事業者 8 社の出展商品。

奥山清行氏・ビートたけし氏・隈研吾氏・佐藤可志和氏と参加事業者とのコラボレーション作品。

入 館 者 4,224 人 1 日平均 264 人



佐藤可士和氏 作品



隈研吾氏 作品



展示風景

(5) 第 55 回 日本現代工芸美術展 佐賀・有田巡回展

趣 旨

現代工芸美術家協会は、工芸美を追求し新しい工芸分野の開拓を目指す団体です。九州陶磁文化館では毎年九州会展が行われていますが、有田焼創業 400 年を記念し、本年は、本展の巡回展戸併せて開催されます。

展覧会では、本展選抜作品と九州在住作家の作品が集まり、工芸からアートまで極めて変化に富む作品をお楽しみ頂けます。

<広報資料より>

会 期 平成 28 年 7 月 24 日～8 月 7 日 (13 日間)

会 場 第 1・2 展示室

主 催 一般社団法人 現代工芸美術協会、現代工芸美術家協会 九州会

後 援 佐賀県、佐賀県教育委員会、有田町、有田町教育委員会、
NHK 佐賀放送局、サガテレビ、佐賀新聞社、西日本新聞社、
佐賀県立九州陶磁文化館

展示内容 本展作品 72 点と九州の作家 46 点をあわせた 118 点

(陶磁、金属、染織、漆、人形、木、竹、ガラス、革、七宝、紙)

入 館 者 3,040 人 1 日平均 234 人



佐賀県知事賞 「波動」
辻 聡彦

第55回記念日本現代工芸美術佐賀有田巡回展 地元賞一覧			
賞	入賞作品名	氏名	出身県
佐賀県知事賞	波動	辻 聡彦	佐賀
有田町長賞	晩景の波風	丸田 延親	佐賀
NHK 佐賀放送局長賞	潮紋	秋永 尚子	熊本
佐賀新聞社賞	遺思	今林 邦寛	福岡
佐賀県立九州陶磁文化館長賞	蒼穹	大畑 桃子	宮崎
肥前窯業圏協議会長賞	地の章～Vessel of Earth・II～	興梠 宜伸	佐賀

(6) 有田焼創業400年記念イヤーイベント in 九州陶磁文化館
特別企画展 人間国宝と三右衛門

趣 旨

佐賀県の有田焼や唐津焼は日本を代表する焼きものとして知られその中でも有田の今右衛門窯、柿右衛門窯、唐津の太郎右衛門窯はそれぞれの伝統と歴代の作品によって高い評価を受けてきた。また歴史ある山地の風土の中から人間国宝を輩出し、今日では有田の井上萬二氏と14代今泉今右衛門は白磁と色絵磁器の、武雄の中島宏氏は青磁の技術保持者として人間国宝に認定されている。

この度の特別展は有田焼創業400年を記念し、人間国宝の井上氏、中島氏、今泉氏の代表作と、いわゆる三右衛門の歴代の作品を展示し、伝統によって生み出された日本を代表する作品を紹介するものである。

<開催要項より>

会 期 平成28年8月11日～9月25日(41日間)

会 場 第2・3展示室

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

観 覧 料 無料

展示構成

1) 井上萬二	10件 15点
2) 中島宏	10件 14点
3) 今右衛門窯	20件 21点
4) 柿右衛門窯	20件 25点
5) 太郎右衛門窯	21件 21点

展示内容 81件 103点

関連行事

1) ギャラリートーク

井上萬二氏 <開催日> 8月21日(日) 14:00～15:00

今泉今右衛門氏 <開催日> 8月27日(土) 13:30～14:30

中里太郎右衛門氏 <開催日> 9月10日(土) 14:00～15:00

酒井田柿右衛門氏 <開催日> 9月22日(木・祝) 14:00～15:00

2) 唐津焼絵付け体験 <開催日> 8月14日(日) 11:00～15:00

3) デザインワークショップ <開催日> 8月27日(土)・28日(日) 10:00～16:00

4) 逆瀬川剛史コンサート <開催日> 8月28日(日) ①11:00～11:30/②13:00～13:30

5) アルモニアコンサート <開催日> 9月4日(日) ①13:00～13:30/②15:00～15:30

6) 有田焼アクセサリー制作体験 <開催日> 9月10日(土) 11:00～15:00

7) 武雄焼手びねり体験 <開催日> 9月11日(日) 11:00～15:00

展覧会パンフレット A4版 フルカラー26ページ(来場者へ無料配布)

入館者 17,568人 1日平均 428人



展示ホール



14代今泉今右衛門氏 ギャラリートーク



第2展示室 展示風景



井上萬二氏 ギャラリートーク



第3展示室 展示風景

(7) 有田窯業大学校同窓会 30周年記念展

趣 旨

今年が有田窯業大学校同窓会の発足から30周年にあたることからOB展を実施し、来場者に同窓会会員の日ごろの制作活動の成果をご覧いただきたく。また会員同士の交流の場を提供することを目的とする。

<広報資料より>

- 会 期 平成28年8月16日～8月21日(6日間)
- 会 場 第1展示室
- 主 催 有田窯業大学校同窓会
- 後 援 佐賀県立九州陶磁文化館
- 展示内容 食器、花器、オブジェ、室内装飾品、絵画など約50件約150点
- 入館者 2,294人 1日平均 382人



展示風景



展示風景



受付

(8) 第 15 回伊万里・有田焼伝統工芸士展

趣 旨

伝統工芸士とは、伝統的工芸品製作の認定試験に合格した技術者のことです。

伊万里・有田焼は経済産業大臣によって伝統的工芸品として指定されており、これに関わる伝統工芸士は、「ろくろ部門」、「下絵付け部門」、「上絵付け部門」で合わせて約 90 名が活躍されています。展覧会では、「酒の器 パートⅢ」をテーマに酒器を中心にした伊万里・有田焼の伝統工芸士の方々の作品を一同に展示し、その優れた技術と活動をご紹介します。 <広報資料より>

会 期 平成 28 年 9 月 3 日～9 月 11 日 (8 日間)

会 場 第 1 展示室

主 催 伊万里・有田焼伝統工芸士会

後 援 九州経済産業局、(財) 伝統的工芸品産業振興協会、佐賀県陶磁器工業協同組合、佐賀大学、伊万里市、有田町、日本磁器誕生・有田焼創業 400 年事業実行委員会、佐賀県立九州陶磁文化館

協 力 伊万里西松浦酒造組合

展示内容 会員 40 名による作品 150 点を展示

入 館 者 3,502 人 1 日平均 438 人



展示風景



制作実演風景

**(9) 有田焼創業 400 年記念イヤーイベント in 九州陶磁文化館
特別企画展 日本磁器誕生**

趣 旨

このたび佐賀県立九州陶磁文化館では、有田焼創業 400 年を記念するにあたり、特別企画展「日本磁器誕生」を開催いたします。

17 世紀初頭の 1610 年代に佐賀・有田で朝鮮陶工による技術導入を契機として日本最初の磁器生産が始まりました。17 世紀後半にはアジアやヨーロッパへも本格的に輸出されるようになり。柿右衛門様式をはじめ各種の様式が生まれ、有田磁器は二音を代表する磁器産業として発展していきます。

日本磁器の最高峰とも称される鍋島焼が確立する一方、有田に始まった日本の磁器生産は、九谷（石川県）や姫谷（広島県）などに伝播し、さらに京都、瀬戸・美濃などの日本各地に磁器生産技術が広がり、多様な作品が生まれました。この展覧会は、有田磁器の革新と発展を軸に、日本磁器 400 年の歩みとその多様性と美を紹介するものです。

＜開催要項より＞

会 期 平成 28 年 10 月 7 日～11 月 27 日（46 日間）
会 場 第 1・第 2・第 3 展示室
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
後 援 朝日新聞社、佐賀新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、
 読売新聞西部本社、NHK 佐賀放送局、サガテレビ、
 NBC ラジオ佐賀、エフエム佐賀（順不同）

観 覧 料 無料

展示構成 第 1 部 日本磁器の創始と色絵の出現

1) 日本磁器の創始

2) 技術革新と色絵の創始

第 2 部 肥前磁器の発展と継承

1) 海外・国内の市場開拓と様式の完成

2) 日本磁器の最高峰

3) 近代の躍動と現代への継承

第 3 部 日本各地の磁器誕生と多様性

展示内容 132 件

展示解説 10 月 8 日（土）より学芸員による展示解説
 毎週土曜日 14：00～15：00

講演会 (1) 開催記念講演会

「日本磁器の始まりの謎の解明と、有田磁器発展の歴史」

講師：大橋康二氏

（九州陶磁文化館名誉顧問・本展観衆）

＜開催日＞平成 28 年 11 月 6 日（日）13：30～15：00

(2) 記念特別講演会

「～よみがえる名品～色鍋島の修復について」

講師：繭山浩司氏（美術古陶磁修復元師）

＜開催日＞平成 28 年 11 月 20 日（日）13：30～15：00

入 館 者 24,247 人 1 日平均 527 人

展示図録 A4 版・163 ページ

佐賀県立九州陶磁文化館 編集・発行



展示ホール



第 1 展示室



第 2 展示室

(10) 有田焼創業 400 年記念イヤーイベント in 九州陶磁文化館
特別企画展 日本磁器の源流

趣 旨

日本で最初の磁器は 17 世紀初頭に有田で誕生しました。2016 年の創業 400 年を記念するにあたり、現在の有田焼の源流である、世界市場でライバルとなった中国磁器との影響関係を、2015 年度に御寄贈いただいた「富永コレクション」の中国磁器を中心にご紹介します。

「有田焼創業 400 年」を契機に、長く世界市場のスタンダードであった中国磁器を、1610 年代に誕生した有田磁器が目指し、越えようとした有田焼の視点から見る機会となれば幸いです。

<開催要項より>

会 期 平成 28 年 12 月 9 日～平成 29 年 1 月 15 日 (32 日間)

会 場 第 1・2・3 展示室
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 570 件 (うち富永コレクション 560 件)
展示構成 1) 中国染付のはじまり
2) 戦国大名が決めた景德鎮磁器
3) 織豊政権時代の中国磁器
4) 有田が目指した明末の中国磁器
5) 有田磁器と競った中国磁器
6) 清朝後期の中国磁器と中国磁器写し

観 覧 料 無料
展示解説 毎週土曜日 14:00～15:00
入 館 者 6,746 人 1 日平均 211 人
展示図録 A4 版・225 ページ
佐賀県立九州陶磁文化館 編集・発行

記念講演会

①「中国染付磁器の始まりから発展と、有田磁器との関わり」

講師：大橋康二氏 (九州陶磁文化館名誉顧問)

<開催日>平成 28 年 12 月 10 日 (日) 13:00～14:00

②「戦国・江戸時代における輸入中国染付の食器利用

一出土品との比較から」

講師：富永樹之氏 (神奈川県埋蔵文化財センター)

<開催日>平成 28 年 12 月 10 日 (日) 14:00～15:00



染付牡丹文大皿 中国・景德鎮窯 (富永コレクション)



左上：色絵梅鶯文小碗 日本・有田窯 (柴田夫妻コレクション)
右上：染付唐人文小坏 中国・景德鎮窯 (富永コレクション)
中下：3D プリント複製品 (九州国立博物館提供)



記念講演会の様子



左：色絵傘持婦人文皿 日本・有田窯
右：色絵傘持婦人文皿 中国・景德鎮窯

(11) 第 48 回 有田工業高等学校卒業制作展

趣 旨

本校は工業の原点である「ものづくり」を通して、創造的で、行動力に満ちた、他者への思いやりの心を持つ人間性豊かなスペシャリストの育成を目指しております。

このたび開催予定卒業制作展で発表する作品は、卒業学年の「課題研究」で取り組んだものを中心に、多種多様な分野に果敢に挑戦して制作したものです。

この作品展は 48 年前にデザイン科のみでスタートしましたが、平成元年よりセラミック科が加わり年ごとに充実し、西暦 2000 年には創立 100 周年を機に本校の一層の発展を期して全校・全学科をあげて開催することになりました。今後も「ものづくり」の有田工業高校の更なる飛躍を目指す所存でございますので、ご理解とご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

〈開催要項より〉

会 期	平成 29 年 1 月 24 日～1 月 29 日 (6 日間)
会 場	第 1 展示室および展示ホール エントランスホール・一般研修室
主 催	佐賀県立有田工業高等学校
後 援	佐賀県立九州陶磁文化館
出品概要	生徒 216 名による作品約 500 点



展示風景

展示内容

- 【セラミック科】ろくろ成形の研究・手びねり、板作り成形の研究・鑄込み成形の研究・陶磁器加飾法の研究・軽量化磁器の研究・ファインセラミックスの研究・釉薬の研究 ほか
- 【デザイン科】「AritaCreative」を共通テーマとした、地域の商品・製品企画の提案、及び授業作品（コミュニティーデザイン・商品企画・商品のブランディング・製品試作・町おこし計画ほか）
- 【電気科】行灯（あんどん）の製作・インドアプレーンの製作・おもしろ電子工作・各種 IC を使った電子工作・ギターの製作・マイコンカーの製作
- 【機械科】おもしろ自転車の製作・ワイパーモーターを利用したものづくり・マシニングセンターを使ったものづくり・ものづくりによる地域貢献・風力発電機の製作・アイデアロボットの製作・快適な環境づくり（グレーチングの製作）・ものづくりで恩返し・手作りピザ窯の製作・3次元 CAD モデルの製作・手作りコマの製作・知的財産を活用したものづくり ほか
- 【定時制】定時制（セラミックコース、デザインコース）の生徒作品・聴講生作品

課題研究発表会

【デザイン科】 1 月 26 日 9:00～15:00

【セラミック科】1 月 27 日 9:00～13:00

対象：全校生・一般

場所：九州陶磁文化館講堂

入館者 2,291 人 1 日平均 382 人



展示風景

(12) 第35回 西松浦郡小・中学校学童美術展

趣 旨

本展示展を通して、子どもたちの造形的な創造活動の能力を伸ばすとともに、創造の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。保護者および、地域住民の皆様にも、子どもたちの学習の成果を公開し、幅広く学校教育および造形教育への理解と協力を願う。地域の特性を生かした作品を展示することにより、子どもたちの地域社会への興味を喚起し、伝統文化を継承し、発展させようとする高い志を育む。〈開催要項より〉

会 期 平成 29年 1月 31日～2月 5日 (6日間)

会 場 第1展示室

主 催 有田町教育研究会造形教育部会

共 催 有田町教育委員会

後 援 佐賀県立九州陶磁文化館

展示内容 日々の授業の中から生まれた、子どもたちの図工・美術作品全般。「絵画」「デザイン」「線描」「立体」の4部門からなる。立体部門は、地域の特色から、焼き物の作品中心となっている。展示作品は、郡や県の審査会で、特に優秀と認められた平面作品35点と立体作品約200点で有田町内の小学校4校、中学校2校から出品された児童、生徒の作品の中から選抜されている。

作品数 平面作品(県特選、県準特選) 37点

立体作品(県特選、県準特選、郡特選) 198点

計 235点

入館者 1,810人 1日平均302人



展示風景

(13) 第2回九陶陶芸教室OB有志展

趣 旨

九州陶磁文化館では、開館翌年の昭和56年度から平成24年度まで初心者を対象とした陶芸教室を実施してきました。平成27年には、当館でその近年の修了者有志が陶芸教室で得た知識と体験をもとに自己研鑽に努めてきた結果をお披露目した展覧会が開催されました。今回の展覧会はこの展覧会に引き続く、2年ぶりの第2回作品展です。茶碗、壺、皿やランプシェードなどの実用品からオブジェまで、多彩な陶器作品が展示されます。自ら体験した陶芸の作る喜び、楽しさ、奥深さなどを少しでも多くの人に伝えることを目的に開催されますので、是非ご来館下さい。

〈開催要項より〉

会 期 平成29年2月14日～19日(6日間)

会 場 第1展示室

主 催 九陶陶芸教室OB有志

後 援 佐賀県立九州陶磁文化館

展示内容 茶碗、壺、皿、鉢、花瓶、ランプシェード、オブジェなど約150～200点

入館者 979人 1日平均163人



展示風景

(14) 第 31 回有田窯業大学校卒業制作展

趣 旨

学生が真摯に窯業技術の習得に取り組んだ学生生活の集大成である「卒業制作」の作品を展示し、来訪者の意見、アドバイスをいただくことにより、学生の今後の制作活動に役立てることを目的とする。

また、専門課程 2 年制コースと一般課程の内容を引き継ぐ形で今年度から始まった窯業人材育成研修の PR を目的として研修生成果物の展示も行う。 <開催要項より>

会 期 平成 29 年 2 月 21 日～2 月 26 日 (6 日間)
会 場 第 1 展示室
主 催 佐賀県立有田窯業大学校、第 31 回卒業制作展実行委員会
後 援 有田町、公益財団法人窯業教育振興会、佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 学生 23 名による作品約 50 件 200 点
(食器、花器、オブジェ、有田の伝統技法による飯碗・皿・湯呑など)
入 館 者 1,444 人 1 日平均 241 人



展示風景

(15) 第 28 回九州陶磁器デザイナー協会展 (DAKT)

趣 旨

九州陶磁器デザイナー協会は、佐賀・長崎にまたがる肥前窯業圏を中心として、陶磁器デザインに関わる企業デザイナー・教育者・窯業技術センター職員等の親睦と研修の集まりです。

その始まりは、昭和 26 年にまでさかのぼりますが、会としての形式は特に整えず、問題意識のある人達が自由に集まって発言の場をする場所として永く続いてまいりました。陶磁器を通して地域の中に根付き、戦後デザインの運動の九州での母体ともなってきました。

このたび第 28 回目の協会展を開き、現在の各会員の作品を紹介するとともに、成果を多くの人に観て頂きたいと思えます。 <開催要項より>

会 期 平成 29 年 3 月 7 日～3 月 12 日 (6 日間)
会 場 第 1 展示室
主 催 九州陶磁器デザイナー協会
後 援 有田町 波佐見町 佐賀県陶磁器工業協同組合 波佐見陶磁器工業協同組合 佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 九州陶磁器デザイナー協会 (通称 DAKT) の会員によるテーマに合わせた陶磁器作品。第 28 回目のテーマは「朝の食卓」。参考に九州陶磁文化館所蔵の森正洋作品を貸出し展示。
作 品 数 約 300 件
入 館 者 1,048 人 1 日平均 175 人



展示風景

(16) 第 32 回有田陶交会展

趣 旨

有田陶交会は、有田焼の製造に携わる窯元の青年たち（30～40 歳代）を中心に構成された新進気鋭のグループです。このたび、同会の主催により、第 32 回有田陶交会店『有田陶交会×音楽』が開催されます。

毎年異なるテーマで、新しい陶芸作品を展示発表している陶交会展ですが、今回のテーマは『音楽』です各自「一曲」を選び、その曲をイメージした作品を制作・出品します。各会員による個性的な作品と表現が期待される新企画です。また、当会は企画運営するコンペティションで審査を通過した有田窯業大学校の学生の作品も一部展示します。

<広報用資料より>

会 期 平成 29 年 3 月 14 日～3 月 20 日（6 日間）

会 場 第 1 展示室

主 催 有田陶交会

後 援 肥前陶磁器商工協同組合、佐賀県陶磁器工業協同組合、佐賀県立九州陶磁文化館

出品概要 有田陶交会に参加している 40 窯元のうち 21 窯元により制作発表される作品と、有田窯業大学校学生 3 名の作品。

入 館 者 1,435 人 1 日平均 205 人



展示風景

3. 利用状況

◎月毎の入館者数

月	開館日数	入館者数	月	開館日数	入館者数
4月	26	5,251	11月	26	13,330
5月	27	6,972	12月	24	5,661
6月	26	3,478	1月	28	5,726
7月	28	6,601	2月	24	4,743
8月	26	9,151	3月	28	4,533
9月	27	11,335	合計	317	89,639
10月	27	12,858	平均	26	7,470

◎展覧会別の入館者数（開催順）

No.	展 覧 会 名	主催・共催	会 期	日	入館者数
1	第 113 回 有田国際陶磁展		4/29～5/8	10	6,162
2	第 25 回 陶千坊展		5/31～6/5	6	960
3	第 37 回九州新工芸展		6/15～6/26	11	1,304
4	佐賀県有田焼創業 400 年事業 メゾン・エ・オブジェ		7/1～7/18	16	4,224
5	第 55 回記念 日本現代工芸美術佐賀有田展		7/24～8/7	14	3,040
6	佐賀県有田焼創業 400 年事業 特別企画展 人間国宝と三右衛門	主催	8/11～9/25	41	17,568
7	有田窯業大学校同窓会展		8/16～8/21	6	2,294
8	第 15 回伊万里・有田焼伝統工芸士展		9/3～9/11	8	3,502
9	有田焼創業 400 年事業 特別企画展 日本磁器誕生	主催	10/7～11/27	46	24,247
10	有田焼創業 400 年事業 特別企画展 日本磁器の源流	主催	12/9～1/15	32	6,746
11	第 48 回 有田工業高等学校卒業制作展		1/24～1/29	6	2,291
12	第 35 回 西松浦郡小・中学校学童美術展		1/31～2/5	6	1,810
13	陶芸教室 OB 展		2/14～2/19	6	979
14	第 31 回 有田窯業大学校卒業制作展		2/21～2/26	6	1,444
15	第 28 回 九州陶磁器デザイナー協会展		3/7～3/12	6	1,048
16	第 32 回 有田陶交会展		3/14～3/20	7	1,435
	合 計			227	79,054

4. 館蔵資料等の貸出

許可番号	No.	事業・展覧会・目的	貸出期間	貸出先	貸出件数
486	1	首都圏営業本部応接室に展示のため	H28.4.1～H29.3.31	佐賀県首都圏営業本部	2件2点
487	2	来賓室、副知事室に展示のため	H28.4.1～H29.3.31	佐賀県秘書課	2件2点
488	3	佐賀県議会議長室に展示のため	H28.4.1～H29.3.31	佐賀県議会事務局	2件2点
489	4	佐賀県教育長室に展示のため	H28.4.1～H29.3.31	佐賀県教育長教育支援課	1件1点
490	5	常設展「日本と世界のやきもの」通史部門・日本ゾーン内「古窯陶磁資料展示コーナー」出品のため	H28.4.1～H29.3.31	愛知県陶磁美術館	183点
491	6	常設展示「日本列島と朝鮮半島との交流史」に展示のため	H28.4.1～H28.12.31	佐賀県立名護屋城博物館	6件6点
492	7	展覧会「異郷に生きて～文禄・慶長の役と佐賀の被慮人～」において展示するため	H28.5.30～H28.8.5	佐賀県立名護屋城博物館	4件8点
493	8	佐賀城本丸歴史御玄関における「県内博物館施設PRコーナー」展示のため	H28.4.1～H29.3.31	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	4件8点
494	9	明治有田超絶の美 万国博覧会の時代展に展示のため	H29.7.1～H29.9.15	西日本新聞社	10件15点
495	10	日本磁器誕生・有田焼創業400年事業「400年有田の魅力展」特別企画『有田焼400年の歴史展』に展示するため	H28.6.17～H28.9.30	日本磁器誕生・有田焼創業400年事業 実行委員会	10件10点
496	11	京王プラザホテルにおける「有田・伊万里やきものまつり」内『佐賀の人間国宝と三右衛門の作品展示』のため	H28.6.28～H28.8.9	佐賀県有田焼創業400年事業推進グループ	1件1点
497	12	「悦楽の磁器—有田の化粧道具」にて展示のため	H28.10.8～28.12.18	伊勢半本店 紅ミュージアム	27件29点
498	13	九州国立博物館文化交流展示（平常展）におけるトピック展示「有田焼創業400年記念 旧家の生活を彩った器—古伊万里」	H28.7.6～H28.11.30	九州国立博物館	1件4点
499	14	ラマン分光法による上絵具の非破壊分析調査	H28.6.10～28.10.30	佐賀県立有田窯業大学校	14点
500	15	京都国立博物館名品ギャラリー特集陳列「絵付けの美 長崎・亀山焼」に出陳のため	H28.9.15～28.12.20	京都国立博物館	12件17点
501	16	武雄市図書館・歴史資料館 平成28年度企画展「古武雄—武雄のやきもの再発見—」への出陳のため	H28.10.10～28.12.20	武雄市教育委員会	35件44点
502	17	有田窯業大学校同窓会30周年記念展に出品のため	H28.8.15～H28.8.21	有田窯業大学校同窓会	1件1点
503	18	展覧会（平成28年度テーマ展）「唐津焼をたずねて」において展示紹介するため	H28.9.29～H28.11.25	佐賀県立名護屋城博物館	1件1点
504	19	旧高取邸土蔵ギャラリーにおいて開催予定の企画展で展示をおこなうため	H28.12.8～H29.3.13	公益財団法人唐津市文化事業団	4件4点
505	20	九州陶磁器デザイナー協会展資料展示の為。	H29.3.6～H29.3.12	九州陶磁器デザイナー協会（DAKT）	11件17点
506	21	明治有田超絶の美 万国博覧会の時代展・秋田会場に展示のため	H29.3.20～H29.6.30	株式会社 西日本新聞社	5件5点
511	22	佐賀県重要文化財・有田異人館の保存修理事業完了に伴い、平成29年4月より一般公開にあわせ、異人館を建築した田代家にまつわる品々などの展示を行うため	H29.3.28～H30.3.31	有田町教育委員会	6件7点
平成29年度 貸出資料数：139件177点 陶片：2件197点					

5. 資料閲覧・写真撮影・フィルム借用・印刷物等掲載・複製申請処理

平成28年4月1日～平成29年3月31日 161件(975点)

※この他、施設としての写真撮影・フィルム借用・印刷物掲載が 32件91点 ありました。

教育普及活動

1. 展示案内

団体案内は予約制だが、要望に応じて随時対応している。

平成28年度 展示案内実施回数

実施回数							人数					
月	学芸 (館長・顧問)	総務	嘱託			計	学芸 (館長・顧問)	総務	嘱託			計
			小計	予約	予約なし				小計	予約	予約なし	
4月	11	0	0	0	0	11	233	0	0	0	0	233
5月	24	0	2	2	0	26	829	0	45	45	0	874
6月	9	0	9	9	0	18	164	0	254	254	0	418
7月	8	0	16	16	0	24	78	0	696	696	0	774
8月	4	0	12	12	0	16	84	0	306	306	0	390
9月	8	0	20	20	0	28	161	0	466	466	0	627
10月	11	0	32	32	0	43	582	0	727	727	0	1,309
11月	22	0	58	55	3	80	400	0	1,524	1,486	38	1,924
12月	10	0	12	11	1	22	208	0	304	278	26	512
1月	9	0	9	9	0	18	186	0	131	131	0	317
2月	14	0	23	23	0	37	296	0	581	581	0	877
3月	8	0	13	13	0	21	258	0	305	305	0	563
計	138	0	206	202	4	344	3,479	0	5,339	5,275	64	8,818

平成28年度 団体観覧

	展示案内		自由観覧		学校行事観覧		合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	6	187	11	317	0	0	17	504
5月	10	353	5	135	4	456	19	944
6月	7	305	14	412	0	0	21	717
7月	6	599	4	145	3	218	13	962
8月	10	299	9	494	5	200	24	993
9月	17	522	19	591	0	0	36	1,113
10月	19	673	26	1,164	7	1,006	52	2,843
11月	39	1,326	18	542	3	149	60	2,017
12月	11	370	8	236	3	81	22	687
1月	4	149	7	341	12	870	23	1,360
2月	19	673	6	210	4	273	29	1,156
3月	10	342	7	198	4	269	21	809
計	158	5,798	134	4,785	45	3,522	337	14,105

*学校行事観覧(団体)は、案内の有無に関らず記載

2. 地域主催イベントとの関連催事

(1) 第113回「有田国際陶磁展」関連催事

趣 旨

九州陶磁文化館では、有田陶器市の期間に「九陶バザ〜ルン♪」を下記のとおり開催します。
多くの方にご来館いただくため、期間中は有田駅から九州陶磁文化館まで無料シャトル便を運行します。
第113回有田国際陶磁展と併せてお楽しみください。

<広報用資料より>

期 間 平成 28 年 4 月 29 日（金・祝）～5 月 5 日（木・祝）
場 所 佐賀県立九州陶磁文化館エントランス
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
内 容 軽食やお菓子、雑貨などさまざまな個性あふれる約 10 店舗が九州陶磁文化館に出店します。
柿右衛門窯、今右衛門窯、源右衛門窯のやきものなど、豪華景品が当たる抽選会を実施。

（抽選会参加者数 2,844 人）



九陶バザ〜ルン♪の様子



抽選会会場



アプローチデッキの様子

(2) ひなまつりイベント

趣 旨

九州陶磁文化館では、今回で12回目となる「やきものとひなまつり」を開催します。「ひなまつりぬりえ展」と題し、有田町内の保育園・幼稚園年長児の皆さんが描いた多彩な「ひなまつりぬりえ」を展示します。

<広報用資料より>

期 間 平成 29 年 1 月 31 日（火）～3 月 26 日（日）
展示会場 エントランス・展示室前通路
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
行事内容

- ・ひなまつりぬりえ展
- ・やきものカルタ
- ・やきものパズル



やきものカルタコーナー



やきものパズルコーナー



ひなまつりぬりえ 展示風景

3. 陶芸文化講座

趣 旨

九州陶磁文化館では、古陶磁を身近で鑑賞し、やきものに関する知識を深めてもらうため、陶芸文化講座を開催します。やきもの見方を知りたい、歴史に触れてみたいなど、陶芸文化に関心をお持ちの方を対象とした講座です。

テ ー マ 「九陶の名品をさわる！」

日 時 平成 29 年 2 月 25 日 (土)

①10:00~12:00 ②14:00~16:00

会 場 佐賀県立九州陶磁文化館

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

講 師 佐賀県立九州陶磁文化館 学芸員

内 容 古陶磁を手にとってみる際の安全なマナーについて学ぶとともに、九州陶磁文化館が所蔵する古陶磁の名品を実際に手に取って鑑賞していただきます。また、作品を通して、やきものの歴史的な変遷を解説します。

鑑賞作品 九州陶磁文化館所蔵の古陶磁 12 点 (唐津焼、有田焼、鍋島焼、吉田焼、景德鎮窯、チェルシー窯)

対 象 高校生以上

定 員 各回 20 名ずつ

応募方法 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加を希望する回を記載する。

応募締切 平成 29 年 2 月 14 日 (水) (消印有効)

受講料 500 円

参加者 第 1 回 : 14 名、第 2 回 : 14 名



講座風景



作品鑑賞

4. 印刷物等の刊行

館報「セラミック九州」53号

発行：平成 29 年 3 月 31 日

規格：A4 版 8 ページ

図版：オールカラー写真・図版 25 点

内容：有田焼創業 400 周年特別号として九州陶磁文化館で開催された平成 28 年度事業を紹介。

400 年を記念する事業である佐賀県有田焼創業 特別企画展の「人間国宝と三右衛門」、「日本磁器誕生」、「日本磁器の源流」についての報告。その他、平成 29 年度に開催予定の特別企画展「熊本のやきもの」について紹介。



5. 資料鑑識

本館での鑑識依頼 78 組 (221 件 231 点)

手紙等での鑑識依頼 42 回 (42 件 78 点)

6. 講演など

No	期日	演題	主催・場所	対象	講師
1	H28.4.3	吉田おやまさん陶器まつり講演会	主催:吉田おやまさん陶器まつり実行委員会 場所:肥前吉田焼窯元会館	講演会参加者	家田淳一
2	H28.5.17	『温故知新一400年は未来への分岐点一』	主催:有田町文化協会 場所:有田町生涯学習センター 北館3階 視聴覚室	講演会参加者	鈴田由紀夫
3	H28.5.27, H28.6.3	『佐賀のやきもの』	主催:佐賀県佐賀市 自治修習所 場所:佐賀県佐賀市 自治修習所	新採職員	家田淳一
4	H28.6.23	『有田焼様式を学ぶ～400年有田の魅力展～』	主催:株式会社東武百貨店 場所:東武百貨店 池袋店	一般顧客	鈴田由紀夫
5	H29.1.12	「有田焼を識る講座」 『ヨーロッパへの輸出時代』	主催:一般社団法人 有田観光協会 場所:九州陶磁文化館 講堂	講座参加者	藤原友子
6	H29.1.17	『嬉野の焼き物』	主催:嬉野市郷土史研究会 場所:嬉野市図書館・歴史民俗資料館	講演会参加者	家田淳一
7	H29.1.19	『有田焼四百年の歩み』	主催:ELEGANCE TEA TABLE 場所:有田町南原 藍田荘	講座参加者	鈴田由紀夫
8	H29.1.24	『九州陶磁の歴史と技術について』	主催:佐賀県立有田工業高等学校 場所:九州陶磁文化館	セラミック科 2年生	家田淳一
9	H29.3.17	「有田焼を深く学ぶ講座」 『近代の有田焼』	主催:一般社団法人 有田観光協会 場所:九州陶磁文化館	講座参加者	鈴田由紀夫

調査研究活動

1. 調査

No	期日	目的	調査地・研修地	調査者
1	H28.4.14	特別企画展資料調査	佐賀県内	鈴木由紀夫 徳永貞紹
2	H28.4.21	特別企画展資料調査	佐賀県立博物館・美術館	家田淳一 徳永貞紹
3	H28.4.26~4.27	特別企画展資料調査	東京都内	鈴木由紀夫 徳永貞紹
4	H28.5.3	特別企画展資料調査	佐賀県内	家田淳一
5	H28.5.12~5.13	特別企画展資料調査	根津美術館 ほか	大橋康二 徳永貞紹
6	H28.5.16~5.19	特別企画展資料調査	新潟県内	大橋康二 徳永貞紹
7	H28.5.26	特別企画展資料調査	佐賀県内	徳永貞紹
8	H28.5.27	特別企画展資料調査	佐賀県内	鈴木由紀夫 徳永貞紹
9	H28.6.2	特別企画展資料調査	諫早市美術・歴史館	徳永貞紹
10	H28.6.9~6.10	特別企画展資料調査	蘭島文化振興財団松濤園	徳永貞紹
11	H28.6.16	特別企画展資料調査	栗田美術館	徳永貞紹
12	H28.6.17	特別企画展資料調査	出光美術館	徳永貞紹 山本文子
13	H28.6.16~6.17	特別企画展資料調査・出品交渉	栃木県内 ほか	徳永貞紹
14	H28.7.6	特別企画展資料調査	長崎歴史文化博物館	徳永貞紹
15	H28.7.25~7.28	特別企画展出品資料調査	東京都内・千葉県内	徳永貞紹
16	H28.8.1~8.2	特別企画展資料調査	京都府内・大阪府内	徳永貞紹
17	H28.8.4	特別企画展資料調査	福岡東洋陶磁美術館	徳永貞紹
18	H28.8.17	特別企画展出品作品C T調査	九州国立博物館	藤原友子 山本文子
19	H28.12.20~12.21	今泉コレクション調査用務	東京都世田谷区	藤原友子

2. 調査協力・出張など

No	期日	内容	場所	依頼	担当者
1	H28.5.26	九州の陶磁器について視察の対応	九州陶磁文化館	公益財団法人出雲市芸術文化振興財団 出雲文化伝承館	藤原友子
2	H28.6.16	陶磁器類の生産地や制作年代等の指導	九州陶磁文化館	公益財団法人広島県教育事業団事務局 埋蔵文化財調査室	大橋康二
3	H28.8.18	第1回嬉野市文化財保護審議会	嬉野市歴史資料館	嬉野市教育委員会	家田淳一
4	H28.10.14	「古武雄—武雄のやきもの再発見—」展示立会い及び内覧会	武雄市図書館・歴史資料館	武雄市図書館・歴史資料館	鈴田由紀夫
5	H29.1.27	福智町図書館・歴史資料館 展示品購入選定委員会への出席	福智町役場方城支所 1階会議室	福智町教育委員会	藤原友子
6	H29.1.30 ～2.2	「明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代」展示指導	はつかいち美術ギャラリー	西日本新聞社	山本文子
7	H29.2.7	平成28年度第2回長崎県文化財保護審議会への出席	セントヒル長崎	長崎県教育庁学芸文化課	藤原友子
8	H29.2.18. ～2.23	基盤研究「ザクセン選帝侯アウグスト二世旧蔵日本磁器の研究—西洋における日本像の受容的考察」に関する調査研究によるドレスデン国立美術館磁器コレクション館の陶磁器調査	ドイツ ドレスデン国立美術館磁器コレクション館	国立歴史民俗博物館 管理部研究協力課	藤原友子
9	H29.2.21	第2回嬉野市文化財保護審議会	嬉野市歴史資料館	嬉野市教育委員会	家田淳一

資料収集活動

1. 陶磁資料の収集

平成 28 年度は寄贈資料 23 件 45 点を収蔵し、総計 13,374 件 24,937 点となる。

2. 図書資料の収集

報告書	350
目録	12
紀要	143
海外	43
図録	177
年報	99
一般図書	55
その他	48
合計	927

佐賀県立九州陶磁文化館資料目録 平成 28 年度 (2016. 4~2017. 3)

凡 例

1. この資料目録は、平成 28 年度（平成 29 年 3 月 31 日現在）の収蔵資料 21 件 43 点（寄贈）、および 2 件 2 点（購入）を掲載した。

寄贈 21 件 43 点

購入 2 件 2 点

平成 28 年度末の館蔵品総数は 13,374 件、24,937 点 である。

2. 「収蔵番号」は、収蔵登録番号と収蔵年度で〈00000-28〉と表示した。
3. 法量の単位はセンチメートルである。
4. 平成 16 年度分類より大区分の一部を変更した。
 - (1) 「近代資料」（旧：幕末・近代資料）は、以下の 2 項目とする。
 130. 佐賀県 近代 (旧：幕末・近代資料 佐賀県)
 140. 九州（県外） 近代 (旧：幕末・近代資料 九州（県外）)
 - (2) 「九州以外 他」を旧「幕末・近代資料」から分離、新たにつくり時代順とした。
 150. 九州以外 近世 (旧 160. 九州以外の陶磁器)
 160. 九州以外 近代 (旧 150. 幕末・近代資料 九州以外)
 170. 陶磁器関連資料（文書・図案など）
5. 平成 27 年度に該当のない分類項目は、目録から省略している。
6. 現代作家作品については、「産地」に「作家名」を入れた。

収蔵番号	資料名	点数	産地	年代	口径	高さ	底径	備考	
【011.唐津系陶器】									
13368	-28 灰釉鉄絵一文文皿	1	肥前	1616年	13.0	4.2	4.2	寄贈 満山定助	
【021.初期伊万里様式】									
13354	-28 染付花唐草文小皿	7	肥前 有田	1610~1630年代	14.5	4.4	5.1	寄贈 柴澤一仁	
13369	染付蔓草文水指	1	肥前 有田窯	1610~30年代	14.5	16.5	13.2	購入	
13367	-28 銹瑠璃青磁釉蓮鷺文輪花三足皿	1	肥前・有田	1640年代	23.1	6.6	8.1	寄贈 小荷田謙一	
【031.正保様式】									
13370	-28 色絵松竹岩文大皿	1	肥前 有田 山辺田窯	1650年代	32.5	9.3	17.0	購入	
【033.寛文様式】									
13355	-28 色絵芙蓉手花鳥文大皿	1	肥前・有田	1660~1670年代	30.6	5.7	14.5	寄贈 小荷田謙一	
13356	-28 染付鷺文大皿	1	肥前・有田	1660~1670年代	32.5	6.3	16.8	寄贈 小荷田謙一	
13371	-28 色絵桜花波文変形小皿	5	肥前 有田	1660~70年代	12.8×9.0	2.2	6.3 × 4.5	寄贈 柴田 祐子	
【035.元禄様式】									
13357	-28 色絵牡丹唐花文鉢	2	肥前・有田	1690~1730年代	21.2	10.6	9.5	寄贈 小荷田謙一	
13358	-28 色絵椿文十角鉢	1	肥前・有田	1700~1730年代	19.0	8.8	9.0	寄贈 小荷田謙一	
13359	-28 色絵団龍唐花文八角皿	1	肥前・有田	1690~1710年代	26.1	4.7		寄贈 小荷田謙一	
【041.柿右衛門様式】									
13360	-28 色絵雁文皿	1	肥前・有田・南川原	1670~1690年代	24.5	4.0	16.0	寄贈 小荷田謙一	
【051.鍋島藩窯様式】									
13361	-28 色絵野菜尽文皿	1	肥前・鍋島藩窯	1690~1730年代	20.5	6.0	10.9	寄贈 小荷田謙一	
13362	-28 色絵南天文皿	1	肥前・鍋島藩窯	18世紀前半	19.2	3.8	10.5	寄贈 小荷田謙一	
13363	-28 色絵芥子文皿	1	肥前・鍋島藩窯	1690~1730年代	20.1	5.5	11.0	寄贈 小荷田謙一	
13364	-28 色絵椿文皿	1	肥前・鍋島藩窯	18世紀前半	20.0	5.7	9.9	寄贈 小荷田謙一	
13365	-28 染付芙蓉文大皿	1	肥前・鍋島藩窯	18世紀中葉	34.0	8.9	17.2	寄贈 小荷田謙一	
【150.九州以外 近世】									
13372	-28 色絵赤玉菊文猪口	6	関西	19世紀	5.4	5.8	3.0	寄贈 柴田祐子	
【180.中国の陶磁器】									
13366	-28 色絵花蝶文「雨香齋」銘碗	1	中国 景德鎮	17世紀前半	12.0	3.7	4.4	寄贈 柴澤一仁	
【230.現代作家 佐賀県 I】									
13373	-28 白磁青海波彫文茶器	7	井上萬二 佐賀県	平成15年頃	急須 径 12.5 × 8.6	急須 7.0	急須 4.5	寄贈 柴田祐子	

13374	-28	白磁牡丹彫文香合	1	井上萬二 佐賀県	平成 15 年頃z	8.0	総高 3.5	5.0	寄贈	柴田祐子
13375	-28	白磁丸形壺	1	井上萬二 佐賀県	平成 28 年(2016 年)	3.5	10.0	4.8	寄贈	柴田祐子
【260.現代作家 福岡県】										
13353	-28	切り継ぎ一廻一	1	森山寛二郎 福岡県	平成 28 年(2016)	長径 65.0×奥行 35.0			寄贈	森山寛二郎

資料件数一覧

		S53~H27						H28						合計					
		件数			点数			件数			点数			件数			点数		
		購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計
近世の肥前陶磁	011.唐津系陶器	49	245	294	61	274	335	0	1	1	0	1	1	49	246	295	61	275	336
	021.初期伊万里様式	36	213	249	61	330	391	1	2	3	1	8	9	37	215	252	62	338	400
	030.古伊万里様式	281	4993	5274	503	12360	12863	1	6	7	1	11	12	282	4999	5281	504	12371	12875
	031.古伊万里・正保様式	53	167	220	105	268	373	1	0	1	1	0	1	54	167	221	106	268	374
	032.古伊万里・承応様式	8	283	291	20	462	482	0	0	0	0	0	0	8	283	291	20	462	482
	033.古伊万里・寛文様式	62	938	1000	116	1756	1872	0	3	3	0	7	7	62	941	1003	116	1763	1879
	034.古伊万里・延宝様式	37	834	871	58	1895	1953	0	0	0	0	0	0	37	834	871	58	1895	1953
	035.古伊万里・元禄様式	86	1337	1423	132	3353	3485	0	3	3	0	4	4	86	1340	1426	132	3357	3489
	036.古伊万里・宝暦様式	7	437	444	21	1667	1688	0	0	0	0	0	0	7	437	444	21	1667	1688
	037.古伊万里・天明様式	5	549	554	21	1642	1663	0	0	0	0	0	0	5	549	554	21	1642	1663
	038.古伊万里・文政様式	23	448	471	30	1317	1347	0	0	0	0	0	0	23	448	471	30	1317	1347
	041.柿右衛門様式	29	88	117	33	200	233	0	1	1	0	1	1	29	89	118	33	201	234
	051.鍋島藩窯様式	56	136	192	68	404	472	0	5	5	0	5	5	56	141	197	68	409	477
	小計	451	5675	6126	726	13568	14294	2	15	17	2	26	28	453	5690	6143	728	13594	14322
近世の九州陶磁 (県外)	060.長崎の陶磁器	51	95	146	121	224	345	0	0	0	0	0	0	51	95	146	121	224	345
	070.福岡の陶磁器	39	184	223	43	199	242	0	0	0	0	0	0	39	184	223	43	199	242
	080.熊本の陶磁器	31	123	154	61	148	209	0	0	0	0	0	0	31	123	154	61	148	209
	090.大分の陶磁器	3	2	5	3	2	5	0	0	0	0	0	0	3	2	5	3	2	5
	100.宮崎の陶磁器	2	1	3	2	1	3	0	0	0	0	0	0	2	1	3	2	1	3
	110.鹿児島島の陶磁器	62	74	136	63	89	152	0	0	0	0	0	0	62	74	136	63	89	152
	120.沖縄の陶磁器	77	18	95	77	18	95	0	0	0	0	0	0	77	18	95	77	18	95
	小計	265	497	762	370	681	1051	0	0	0	0	0	0	265	497	762	370	681	1051
近代資料	130.佐賀県 近代	36	832	868	58	1785	1843	0	0	0	0	0	0	36	832	868	58	1785	1843
	140.九州(県外) 近代	8	83	91	9	232	241	0	0	0	0	0	0	8	83	91	9	232	241
	小計	44	915	959	67	2017	2084	0	0	0	0	0	0	44	915	959	67	2017	2084
九州以外 他	150.九州以外 近世	10	353	363	19	481	500	0	1	1	0	6	6	10	354	364	19	487	506
	160.九州以外 近代	4	153	157	4	280	284	0	0	0	0	0	0	4	153	157	4	280	284
	170.陶磁器関連資料(文書・図案など)	8	1960	1968	15	2602	2617	0	0	0	0	0	0	8	1960	1968	15	2602	2617
	小計	22	2466	2488	38	3363	3401	0	1	1	0	6	6	22	2467	2489	38	3369	3407
世界の陶磁器	180.中国の陶磁器	29	862	891	38	1300	1338	0	1	1	0	1	1	29	863	892	38	1301	1339
	190.朝鮮の陶磁器	0	110	110	0	112	112	0	0	0	0	0	0	0	110	110	0	112	112
	200.アジアの陶磁器	0	37	37	0	37	37	0	0	0	0	0	0	0	37	37	0	37	37
	210.ヨーロッパの陶磁器	39	32	71	40	69	109	0	0	0	0	0	0	39	32	71	40	69	109
	220.その他の世界の陶磁器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	68	1041	1109	78	1518	1596	0	1	1	0	1	1	68	1042	1110	78	1519
現代作家作品	230.佐賀県 I	48	1643	1691	48	2113	2161	0	3	3	0	9	9	48	1646	1694	48	2122	2170
	240.佐賀県 II 松本佩山	0	87	87	0	126		0	0	0	0	0	0	0	87	87	0	126	126
	250.長崎県	3	14	17	3	14	17	0	0	0	0	0	0	3	14	17	3	14	17
	260.福岡県	4	23	27	4	62	66	0	1	1	0	1	1	4	24	28	4	63	67
	270.熊本県	2	7	9	2	7	9	0	0	0	0	0	0	2	7	9	2	7	9
	280.大分県	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
	290.宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	300.鹿児島県	2	3	5	2	3	5	0	0	0	0	0	0	2	3	5	2	3	5
	310.沖縄県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	320.九州以外	2	52	54	2	62	64	0	0	0	0	0	0	2	52	54	2	62	64
	330.国外	2	14	16	2	15	17	0	0	0	0	0	0	2	14	16	2	15	17
	小計	63	1844	1907	63	2403	2466	0	4	4	0	10	10	63	1848	1911	63	2413	2476
	合計	913	12438	13351	1342	23550	24892	2	21	23	2	43	45	915	12459	13374	1344	23593	24937

佐賀県立九州陶磁文化館年報・資料目録

平成 28 年度 No.36

発 行 日 平成 29 年 8 月 8 日

編集・発行 佐賀県立九州陶磁文化館

〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1

TEL 0955-43-3681 FAX 0955-43-3324

<http://saga-museum.jp/ceramic/>

E-mail:kyuto@pref.saga.lg.jp

